

平成29年度  
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(平成28年度対象)

平成29年11月

深谷市教育委員会



## 目 次

1	趣 旨	1 頁
2	点検評価の目的	1 頁
3	点検評価の対象及び方法	2 頁
4	深谷市教育振興基本計画の施策体系	3 頁
5	点検評価表及び重点施策評価表	
I 社会を生き抜く力の育成		
(1)	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	4 頁
(2)	未来を切り拓くための確かな学力の育成	8 頁
(3)	郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	12 頁
(4)	夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	16 頁
(5)	高い志をもつキャリア教育の推進	18 頁
(6)	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	22 頁
II たくましく生きるための心と体の育成		
(1)	まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	26 頁
(2)	いじめ・不登校の防止	30 頁
(3)	生徒指導の充実	34 頁
(4)	人権を尊重した教育の推進	38 頁
(5)	健康の保持増進	42 頁
(6)	体力の向上と学校体育活動の推進	46 頁
III 信頼される学校教育の推進		
(1)	信頼される教職員の育成	50 頁
(2)	子どもたちの安心・安全の確保	54 頁
(3)	学習環境の整備・充実	58 頁
IV 家庭・地域の教育力の向上		
(1)	家庭の教育力の向上	62 頁
(2)	地域の教育力の向上	64 頁

V	生涯を通じた学習活動の推進	
(1)	学習機会の提供と学習活動の支援	68頁
(2)	活動施設の整備・充実	70頁
(3)	図書館の整備・充実	72頁
VI	深谷らしい文化の創造	
(1)	渋沢栄一翁の顕彰	74頁
(2)	伝統文化の保存・継承と活用	78頁
(3)	文化・芸術活動の活性化	82頁
VII	生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	
(1)	スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	84頁
(2)	スポーツ・レクリエーション活動の活性化	86頁
6	結びに	89頁

## 1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、すべての教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

本市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、「教育委員会の事務執行に関する点検評価」（以下「点検評価」という。）を実施し、報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検評価の目的

この点検評価は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックすることにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

### 3 点検評価の対象及び方法

本市教育行政の基本施策は、平成24年3月に策定された立志と忠恕の深谷教育プラン（以下「深谷市教育振興基本計画」という。）に位置づけられています。

このため、深谷市教育振興基本計画に位置づけられた25施策（中項目）を評価単位として、平成28年度の取組について点検評価を実施しました。

点検評価表のうち、総合評価は、「SABC」評価とし、区分の目安として、

- S：計画以上に進んでいる
- A：ほぼ計画通りに進んでいる。
- B：あまり進んでいない。
- C：まったく進んでいない。

としました。

この区分の補足説明として、「課題」「評価コメント」欄を設けるとともに、深谷市教育振興基本計画において各施策に設定されている「成果指標」の欄を設け、平成23年度からの実績値の推移を表で示しました。

また、「意見・提言」の欄には、教育に関し学識を有する方（以下「点検評価者」という。）の御意見や御提言の主なものを施策ごとに示しています。

さらに、各点検評価表に重点施策評価表を添付し、各施策における平成28年度の重点施策及び評価を示しています。

## 4 深谷市教育振興基本計画 施策体系

基本目標(大項目)	施策(中項目)	点検評価表作成課 (評価表取りまとめ課)		重点施策評価表 作成課	No.
			関連課		
I 社会を生き抜く力の育成	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	学校教育課	教育総務課 学校教育課	教育総務課 学校教育課	1
	未来を切り拓くための確かな学力の育成	学校教育課	学校教育課	学校教育課	2
	郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	3
	夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	4
	高い志をもつキャリア教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	5
	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	6
II たくましく生きるための心と体の育成	まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	7
	いじめ・不登校の防止	学校教育課	学校教育課	学校教育課	8
	生徒指導の充実	学校教育課	学校教育課	学校教育課	9
	人権を尊重した教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	10
	健康の保持増進	学校教育課	教育総務課 教育施設課 学校教育課	教育総務課 教育施設課 学校教育課	11
	体力の向上と学校体育活動の推進	学校教育課	学校教育課 生涯学習 スポーツ振興	学校教育課	12
III 信頼される学校教育の推進	信頼される教職員の育成	学校教育課	学校教育課	学校教育課	13
	子どもたちの安心・安全の確保	学校教育課	学校教育課	学校教育課	14
	学習環境の整備・充実	教育総務課	教育総務課 教育施設課 学校教育課	教育施設課 学校教育課	15
IV 家庭・地域の教育力の向上	家庭の教育力の向上	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	16
	地域の教育力の向上	生涯学習スポーツ振興課	学校教育課 生涯学習スポーツ振興課	学校教育課 生涯学習スポーツ振興課	17
V 生涯を通じた学習活動の推進	学習機会の提供と学習活動の支援	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	18
	活動施設の整備・充実	生涯学習スポーツ振興課	教育施設課 生涯学習スポーツ振興課	教育施設課 生涯学習スポーツ振興課	19
	図書館の整備・充実	図書館	図書館	図書館	20
VI 深谷らしい文化の創造	渋沢栄一翁の顕彰	渋沢栄一記念館	渋沢栄一記念館	渋沢栄一記念館	21
	伝統文化の保存・継承と活用	文化振興課	文化振興課	文化振興課	22
	文化・芸術活動の活性化	文化振興課	文化振興課	文化振興課	23
VII 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	生涯学習スポーツ振興課	教育施設課 生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	24
	スポーツ・レクリエーション活動の活性化	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	25

# 5 点検評価表及び重点施策評価表

基本目標Ⅰ 社会を生き抜く力の育成

I-1

<b>施策名</b>	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進		<b>点検評価表 作成課</b>	学校教育課				
<b>施策の方向性</b>	○幼稚園と保育園において家庭との連携・協力した幼児教育を推進するとともに、教職員に対する研修を充実させます。 ○子どもの発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育を充実するために、小学校との「なめらかな接続」を推進します。 ○公共施設としての幼稚園、保育園の機能を活用した子育ての支援策の充実に取り組みます。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○質の高い幼児教育の推進			○幼保一体化への対応				
	○幼稚園教員や保育士の資質向上							
	○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進							
	○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実							
<b>指標名</b>	「子育てひろば」へ参加しての「活動を通しての満足度」の割合							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	事業に参加してのアンケート調査「非常に満足」と「満足」を合わせたの回答率	89.0%	99.1%	98.6%	100%	100%	100%	
		現状値 (平成23年度)		89%	➡	目標値 (平成29年度)		95%

<b>平成28年度 重点施策</b>	○幼稚園教諭と保育士の交流 ○幼保小中連携の強化 ○就園前教育支援事業 ○(仮称)ふかやこども園のモデル園の検討
------------------------	---

<b>平成28年度 実績</b>	○質の高い幼児教育の推進 ・幼稚園教諭研修会(4月・7月・8月・3月)を実施した。 ・幼稚園教諭保育参観研修(10月・11月)を実施した。 ○幼稚園教諭や保育士の資質向上 ・幼稚園教諭保育参観研修及び幼稚園教諭・保育士の交流会(10月・11月)を実施した。 ○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進 ・幼保小中連絡協議会(9月・2月)を実施した。 ○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実 ・就園前幼児教育支援事業「子育てひろば」・・・全体会2回と幼稚園会場27回(9園×3回)を開催した。 ○幼保一体化への対応 ・平成29年度4月からの(仮称)ふかやこども園モデル園(おかべ幼稚園及びみらい幼児園おかべ)の実施に向け、保育課と保育サービスや幼保の連携、教育・保育内容の検討を行い、保護者、職員へ周知・報告した。
----------------------	---

<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

<b>課題</b>	・幼稚園教育の質の向上と安定化を図る。 ・就園前幼児教育支援事業「子育てひろば」の活動内容の充実と会場の整備を進める必要がある。
-----------	---

<b>評価コメント</b>	・「子育てひろば」に参加した方の満足度は高い。未就園児を持つ保護者にとって、同年齢の子どもたちと安心して遊ばせたり、子育てに対する不安や悩みを話したり、横の繋がりを持つことができる場であるとともに、教育研究所の専門員や学校福祉相談員等により、子育てのアドバイスや心理面よりサポートを受けられる機会となっている。また、幼稚園就園を考えている保護者にとっては、園の様子が分かり、園児や教師との関わりを持つことができるため、参加者の半数以上が公立幼稚園へ入園した。 ・(仮称)ふかやこども園のモデル園で実施される教育・保育内容の検討について、教育委員会と保育課で共同して進めることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	--

<b>意見・提言</b>	・成果指標である子育て広場の満足度は、3年連続で100%となっており、非常に高く評価できる。 ・子育て広場は、スムーズな入園を可能にする素晴らしい事業である。
--------------	--



# 重点施策評価表

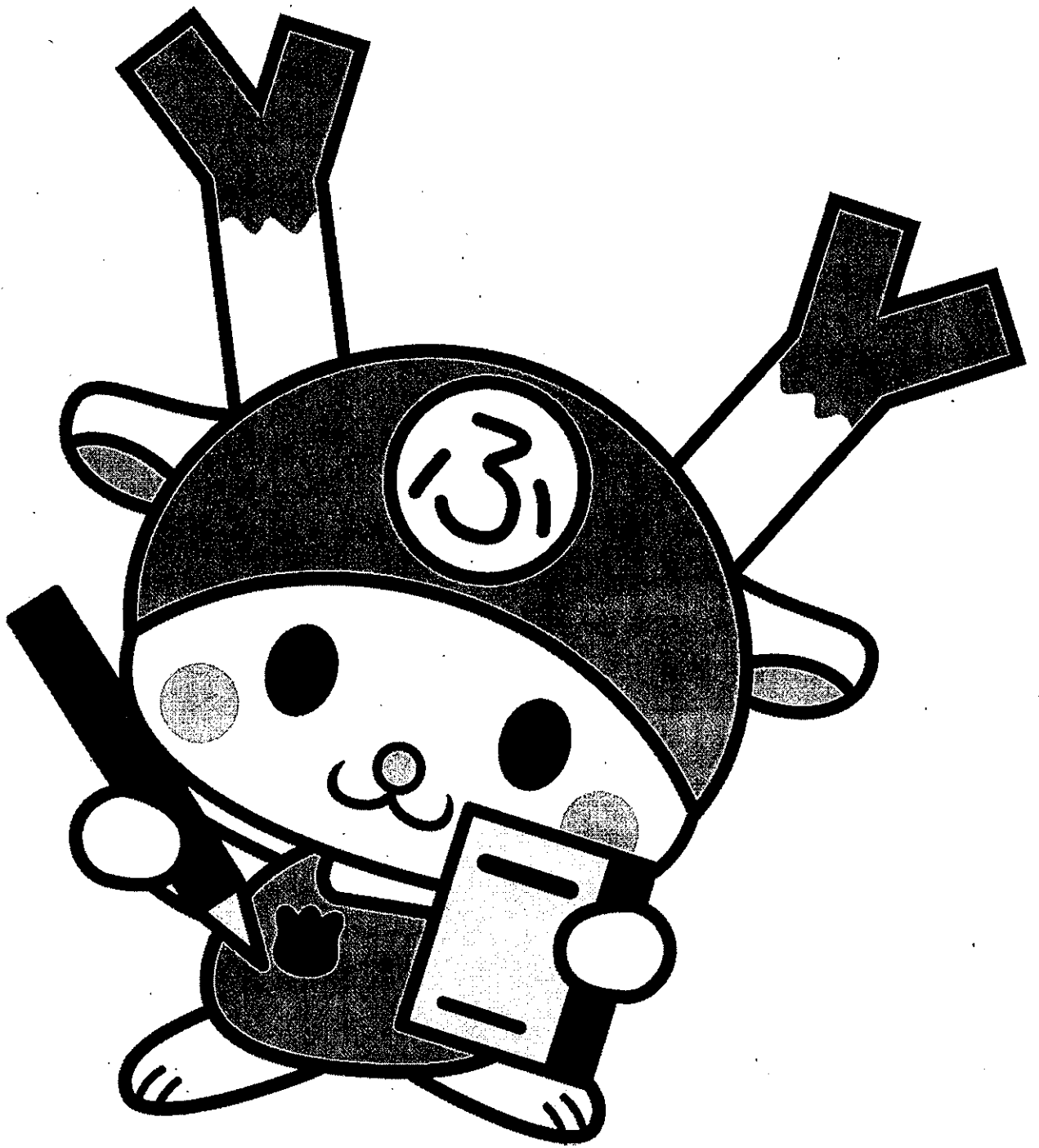
<b>重点施策名</b>	幼稚園教諭と保育士の交流	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	幼稚園教諭と保育士が研修会等で交流を深め、双方の資質向上を図る。		
<b>平成28年度の実績</b>	○市立幼稚園教諭と市立保育園保育士の保育参観研修会及び交流会の実施 ・対象…正規の幼稚園教諭・保育士 ・日程…第1回 平成28年10月20日(木) 会場:深谷西幼稚園 参加者:幼稚園教諭3名(+深西幼職員4名) 保育士3名 第2回 平成28年11月29日(火) 会場:藤沢幼稚園 参加者:幼稚園教諭4名(+藤沢幼職員4名) 保育士7名 ・内容…幼稚園教諭の保育を参観、参加し、幼稚園教育を体験をする。 園児降園後、参加者全員で本日の保育等について意見交換、協議等を行った。		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
市立幼稚園教諭と市立保育園保育士の保育参観研修会及び交流会の実施回数	2回	実際に幼稚園の教育を参観、参加しながら就学前教育について共通理解することができた。幼稚園、保育園勤務状況が違うので、研修日の設定が難しかった。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	幼稚園、保育園の職員間での人事交流も進んでいる。同じ就学前の幼児を教育・保育をしていることから現状の様子や課題等を話し合い、共通理解を図ることにより小学校とのなめらかな接続を図るきっかけとすることができた。今後も続けて行きたいことから評価を「現状維持」とした。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	幼保小中連携の強化	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	幼・保・小のスムーズな連携を図るため、子育ての目安「3つのめばえ」を保育や教育の中で活用した。併せて中学校との連携を強化するため、中学校社会体験チャレンジ等を実施した。		
<b>平成28年度の実績</b>	○取組 ・県から配布された「3つのめばえ」のポスターの掲示、懇談会等での「パンフレット」配布、また、遊びの中で「3つのめばえ」カルタを活用する等、日々の保育の中で「3つのめばえ」を意識しながら教育を行った。 ・小学校の教職員との研修会や連絡会等を行い、就学前までに身につけてほしいことや園での取組について協議する場を設けた。 ・地域の保育園や小・中学校で子ども同士の交流活動や職員間での連携を実施した。		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	子育ての目安「3つのめばえ」を保育や教育の中で活用した幼稚園数	10園/10園	全幼稚園で、様々な「3つのめばえ」の資料等を活用し、教育活動に取り入れ、保護者への啓発も積極的に行った。
	地域の小学校と連携している幼稚園数	10園/10園	全幼稚園で、地域の小学校行事への参加、施設を使用しての交流や職員間での連携を進めた。
地域の保育園・中学校と連携している幼稚園数	保育園 3園/10園 中学校 3園/10園	立地条件等により、小学校のように連携をしていくのは難しいが、できる園・学校と工夫をしながら連携をした。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	子育ての目安「3つのめばえ」のさまざまな資料を保育や教育の中で活用することにより、小学校入学までに身につけたいことを意識し、幼児期の教育と家庭の教育の充実を図り、小学校へのなめらかな接続につなげた。また、地域の幼稚園・小・中学校との連携による行事参加や教職員のコミュニケーションを図ることができたため、評価を「現状維持」とした。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

# 重点施策評価表

重点施策名	就園前教育支援事業	担当課	学校教育課
概要	公立幼稚園の機能を活用し、全園で「子育てひろば」を開催し、子育て支援の充実を図る。		
平成28年度の実績	<p>【内容】 深谷市在住の2歳から5歳までの未就園児親子を対象に地域の子育て支援の拠点となる公立幼稚園や公共施設(ピクチャー・公民館など)を活用し、親子で遊んだり、親子の交流を深めながら、子育ての不安や悩みの相談を行った。また、入園前に園児とふれあいながら幼稚園の生活を体験し、未就園児親子が安心して入園できるようにした。</p> <p>【実績】 ・市内9園にて実施(明戸幼稚園は参加希望が少なかったため、第2希望の他の幼稚園での参加となった。また、大寄・豊里幼稚園は、休園のため開催しなかった。) ・全体会2回(全体会3回の予定だったが、台風接近のため、1回中止となった。) ・幼稚園会場27回(9園×3回) ・地域のボランティア(主任児童委員・保育ボランティア)の協力を得て、活動や援助がスムーズに行えた。</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	各幼稚園会場における子育てひろば開催回数	27回 (9園)	各園ごとに工夫した活動を行うことができた。
	「子育てひろば」へ参加しての「活動を通しての満足度」の割合	100%	幼稚園での戸外遊びや園児との関わりができてよかったという意見が多く、リピーターの方が増えている。
担当課評価	1	<p>各幼稚園ごとに工夫を凝らした内容で参加保護者からも好評であった。地域のボランティア、各幼稚園共に、とても協力的に援助してくれ、引き続きお願いしていきたい。また、園舎の移転により施設面等での安全の確保が難しくなり、実施内容を検討する必要もある。「子育てひろば」を通し、同年齢のお子さんを持つ保護者と交流し、横の繋がりが持てたり、子育ての講話を聞いたり、子育ての情報交換の場にもなっている。また、参加した多くの保護者は、公立幼稚園への入園を考えており、幼稚園の様子を知るよいきっかけとなり、就園にもつながっている。</p>	
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>			

重点施策名	(仮称)ふかやこども園のモデル園の検討	担当課	教育総務課 学校教育課
概要	こども未来部、教育委員会を中心とした関連部署の職員で組織された幼保一体化検討会議及び作業部会での提言を受け、(仮称)ふかやこども園のモデル園の実践に向けた具体的な取組内容の検討を行う。		
平成28年度の実績	<p>・平成29年度よりモデル園として実施できるよう、保育課、教育総務課及び学校教育課で共同して、実践に向けた具体的な取組について検討した。</p> <p>【モデル園の概要】                      &lt;モデル園&gt;                      みらい幼児園おかべ及びおかべ幼稚園                      &lt;開始時期&gt;                      平成29年度4月1日                      &lt;実践内容&gt;                      ◎幼稚園における保育サービスの向上                      (1)3歳児の受け入れの開始                      (2)平日の長時間預かりの拡大                      (3)長期休業中の預かりの開始                      ◎教育・保育内容の連携</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	実践に向けた取組内容の検討回数	20回	モデル園の実践内容を協議し、具体的な取組内容について検討・決定していった。
	担当課評価	4	<p>モデル園の実践にあたり、必要な備品、指導内容、実践内容、手続の仕方など、実践に向けた様々な整備を行った。また、保護者に周知し、関係職員にも実施に伴う説明を行うことができた。</p>
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>			



<b>施策名</b>		未来を切り拓くための確かな学力の育成				<b>点検評価表 作成課</b>		学校教育課	
<b>施策の方向性</b>		○学習指導要領の円滑な実施に努め、児童生徒に応用力や発展的な学力を含めた確かな学力を身に付けさせます。 ○児童生徒の学習状況を的確に把握し、学校の課題改善に向けた取組を支援します。 ○児童生徒一人一人に応じた、きめ細やかで質の高い指導を推進します。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○「青淵学びの郷づくり」の推進				○きめ細やかで質の高い指導の充実			
		○「教育に関する3つの達成目標」の推進				○教育研究所の資源活用			
		○教科などの指導内容・指導方法の工夫・改善							
		○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進							
<b>指標名</b>		全国学力・学習状況調査							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	全国学力・学習状況調査における県の平均正答率を上回る項目数 (比較4項目:小6(国語A・B、算数A・B)、中3(国語A・B、数学A・B))	小6	未実施	未実施	1	2	0	4	
		中3	未実施	未実施	2	4	0	1	
		<b>現状値 (平成25年度)</b>		小6(1) 中3(2)		<b>→</b>		<b>目標値 (平成29年度)</b>	

<b>平成28年度 重点施策</b>	○中学生補習学習運営事業 ○小中一貫教育推進事業 ○学力向上推進事業	
<b>平成28年度 実績</b>	○「青淵学びの郷づくり」の推進 ・中学生補習学習運営事業の実施 全中学校(10校)で実施 参加者1,113名 ・延べ231名の大学生ボランティアが中学生の学習を支援した。 ・こころざし深谷国際塾の実施 参加児童生徒数 小学生12名、中学生15名、合計27名 ・こころざし深谷科学塾の実施 参加児童生徒数 小学生45名、中学生23名、合計68名 ○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進 ・深谷市チャレンジの実施(中3を対象として、学習意欲の向上を図るため年1回実施) ・学力旬間の実施(各校において、学力向上を目的とした取組を実施) ・B問題プレチャレンジの実施(小5、中2を対象として、国語や算数・数学の記述的な問題への取組) ○きめ細やかで質の高い指導の充実 ・少数指導事業の実施 全小学校(19校)にアシスタントティーチャー、教科支援エキスパートを各1名ずつ配置した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	・教員の授業改善に向けた取組を進めていく。	
<b>評価コメント</b>	・平成28年度は、深谷市チャレンジを全小・中学校で実施し、学習意欲に関するアンケート結果では「学習に対する意欲が高まった」と回答した生徒の割合が85.6%であった。 ・全小学校(19校)にアシスタントティーチャー及び教科支援エキスパートを配置したことにより、担任が児童と向き合う時間を確保し、一人一人に寄り添った教育を進めることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・成果指標である全国学力・学習状況調査における県の平均正答率を上回る項目数が、平成27年度と比較して大幅に改善しており、評価できる。 ・中学生補習学習運営事業の大学生ボランティアの人数や、実施回数増加に努力が伺える。学力の向上に効果的な取組であり、引き続き実施してほしい。 ・発達段階に応じたプリント教材の使用により、児童の学習に取り組むハードルを下げている。
--------------	--

# 重点施策評価表

重点施策名	中学生補習学習運営事業		担当課	学校教育課
概要	<p>【青洲学びの郷づくり】            学校総合支援員を増員して、ステップアップレッスンを拡充し、生徒の基礎学力の定着を図る。</p>			
平成28年度の 実績	<p>&lt;補習学習の実施&gt;            ・学習に不安を感じていたり、経済的な理由で通塾をしていない生徒を主な対象として実施した。            ・中学生全学年を対象とし、学習につまづきを感じている生徒に早い段階から支援を行った。            ・学校の実態に合わせ、5月～2月までの期間、全中学校で週2回程度の補習学習を実施した。            ・全中学校で月2回程度、土曜日に補習学習を実施した。</p> <p>&lt;指導員の配置&gt;            ・全中学校に中学校学習支援員を1名ずつ配置し、主に国語・数学・英語の補習学習の指導を行った。            ・埼玉工業大学等の大学生が教育活動サポーターとして補習学習の支援を行った。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	補習学習実施回数	延べ1,536回	全中学校で実施の拡充が図られ、実施回数が増加した。	
	教育活動サポーター派遣回数	延べ231回	埼玉工業大学等の協力を得て、各学校に多数の学生が派遣された。	
	深谷市内中学生の高等学校進学率	98.6%	海外進学者等が多く、その数字が進学率に反映されないため、例年より低い数値となった。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>・全中学校で積極的に補習学習を実施したため、大幅に実施回数を増やすことができた。また、土曜日実施を導入したことにより、補習学習の時間が十分に確保できるようになってきた。            ・教育活動サポーターは多くの大学生に協力を得られたが、まだ不足しているところがあるため、より多くの協力を得られるよう、大学との連携を図っていく必要がある。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				

# 重点施策評価表

重点施策名	小中一貫教育推進事業		担当課	学校教育課
概要	9年間を見通したカリキュラムを作成し、授業実践を通して、指導方法の工夫・改善を図る。また、小学生と中学生の交流活動や、小・中学校の教員の授業参観などを推し進める。			
平成28年度 の実績	<p>&lt;カリキュラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各中学校区において、「小中一貫教育カリキュラム深谷モデル」をもとに、カリキュラムの研究を進めた。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育実施計画書を、各中学校区の小・中学校で協議し、作成した。</li> </ul> </li> <li>○深谷市立教育研究所協力員の協力を得て、平成28年3月に小中一貫教育カリキュラム「つなぎ教材実践事例集」を作成し、全小・中学校に配布するとともに、教育委員会のホームページに掲載した。</li> </ul> <p>&lt;児童生徒交流&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各中学校区において、学区内の小学6年生を対象とした部活動見学・体験の実施、吹奏楽部による小学校の訪問等、児童生徒交流を促進した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・花園中学校区…小学校による「まちたんけん」での中学校訪問や中学校の立志式の見学、小学校の進路学習会としての中学生との交流会を開催した。</li> <li>・川本中学校区…中学生による小学校の運動会補助や親善運動会練習の指導、中学校の授業や部活動見学のための小学生の訪問、中学校の生徒会役員による小学校訪問などを実施した。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;教員研修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小中一貫教育担当者会議を開催した。(6月)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育実施計画書をもとに、各中学校区での小中一貫教育の取組を共有した。</li> <li>・「つなぎ教材集」の活用について、研修を行った。</li> </ul> </li> <li>○はつらつ先生、長期研修教員、教育研究所指導委員の授業を広く市内教員に公開する「こころざし深谷教師塾」を実施した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施校 25校(学校訪問に合わせて実施)</li> <li>・参加教員数 83名</li> </ul> </li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	児童生徒交流を実施した中学校区数	10校区/10校区	全中学校区で、児童生徒の交流活動を実施することができた。	
小中一貫教育担当者会議の開催回数	1回	小中一貫教育実施計画書に基づいた年間計画についての話し合いや、各中学校区の取組について共有することができた。		
評価区分	評価コメント			
1	<p>川本中学校区3校で平成24年度・平成25年度に取り組んだ研究成果を、市内全中学校区に広めようと平成26年度からスタートした小中一貫教育推進事業であるが、学力の向上、不登校児童生徒数の減少など、着実な成果が見られるようになった。</p> <p>引き続き、「小中一貫教育カリキュラム深谷モデル」や「つなぎ教材集」、「つなぎ教材実践事例集」等を活用し、全中学校区において、カリキュラムの研究、児童生徒の交流、教員間の交流等を進めていきたい。</p>			
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	学力向上推進事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】深谷市チャレンジ(数学、英語)を実施し、学習意欲の向上を図る。			
平成28年度 の実績	<p>○深谷市チャレンジ          深谷市チャレンジは、学力の重要な要素の1つである「学習意欲」の向上を目指し、目標をもって学習に取り組むことができる生徒の育成を図ることを目的として実施した。          ※平成27年度までは、全小・中学校(小学校19校、中学校10校)で実施。          【対象学年・教科】          中学校第3学年・・・数学、英語          【実施時期】          10月上旬          【成果】 深谷市チャレンジ実施後の生徒アンケート結果より          学習に対する意欲が高まった(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合          数学 84.6%, 英語 87.4%</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	深谷市チャレンジ実施校数	10校/10校	平成28年度は、全中学校で実施することができた。	
	学習に対する意欲が高まったと回答した生徒の割合	85.6%	実施後のアンケート結果より、「学習に対する意欲が高まった」と回答した生徒の割合が多かった。	
	評価区分	評価コメント		
担当課 評価	1	平成28年度は、全中学校で、深谷市チャレンジを実施することができた。 平成29年度も、同様に実施していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>施策名</b>		郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進		<b>点検評価表作成課</b>		学校教育課			
<b>施策の方向性</b>		○伝統と文化を尊重し、日本人・深谷人としての誇りを持ち、わが国と郷土深谷を愛する態度を養います。 ○国際理解教育を推進するとともに、小学校外国語活動においてコミュニケーション活動の更なる充実を図り、早期外国語教育を推進します。併せて、中学校への「なめらかな接続」を図り、中学校の英語教育を充実します。 ○帰国・外国人児童生徒等への日本語指導など、学校や社会生活への適応を図るために必要な支援を行います。							
<b>施策に関連する主な取組</b>		○伝統と文化を尊重する教育の推進							
		○国際性を育む教育の推進							
		○小学校段階からの外国語活動の推進							
		○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実							
<b>指標名</b>		生徒の英語学習に対する積極的な態度							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値	
	授業で積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしているかという質問に対する回答率	76.0%	82.2%	84.7%	86.4%	86.6%	87.4%		
		現状値 (平成23年度)		中学生 76%		➡		目標値 (平成29年度)	

<b>平成28年度重点施策</b>	○国際化教育推進事業 ○小学校高学年の英語教科化に向けた研究の推進	
<b>平成28年度実績</b>	○国際性を育む教育の推進 ・全小・中学校に外国語指導助手(ALT)16名を配置し、小学校3年生～中学校3年生が、週に1回、ALTとの授業を受けた。 ・小学校3～6年生を対象として、1日中英語を使って各種活動に取り組む「英語王国」を実施し、4日間で延べ200名が参加した。 ○小学校段階からの外国語活動の推進 ・文部科学省から教育課程の特例(小学校3・4年生から外国語活動を行う)を受け、小学校3年生から週1回外国語活動を実施した。 ・小学校高学年の英語教科化に向け、拠点校を設け、教育研究開発を行った。意識調査において、「英語の学習が楽しい」と答えた児童が96%を超え、「授業中積極的に英語を使っている」生徒が87%を超えるなどの成果が明らかになった。 ・深谷市英語教育小中一貫モデルプランを策定し、英語教育の充実を図った。 ○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実 ・日本語指導を必要とする外国籍児童のために、市費日本語指導員(9名)を、小学校12校、中学校5校に配置した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	文部科学省が提唱するグローバル化に対応した英語教育改革実施計画に基づき、2020年を見据え、英語教育において多くの変革が求められている。特に小学校5・6年生での教科化や、それに伴う時数の確保、指導者の指導力向上、小中一貫のカリキュラムの構築など様々な課題が挙げられている。	
<b>評価コメント</b>	・全小・中学校にALTを配置したことで、小学校3年生～中学校3年生の児童生徒が毎週本物の英語に触れることができた。 ・教育課程の特例による外国語活動や英語教科化に向けた教育研究開発を行い、授業で積極的に英語を使う生徒の割合も増加した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・教育課程の特例で小学校3年生から外国語活動を行っており、素晴らしい。 ・小学校高学年の英語教科化については、専門の先生がいないので大変だと思うが、指導法を研究して英語が好きな子供・英語が得意な子供を育ててほしい。 ・生きた英語を学び、英会話ができるようになるために、外国語指導助手(ALT)に触れる時間を増やしてほしい。
--------------	---



# 重点施策評価表

重点施策名	国際化教育推進事業		担当課	学校教育課
概要	【青洲学びの郷づくり】 全小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、英語教育等の充実を図る。			
平成28年度 の実績	<p>○外国語指導助手の配置          【採用人数】 16名          【雇用形態】 労働派遣契約          【雇用期間】 今年度より3ヶ月のクーリング期間がなくなり、1年を通じて雇用が可能となった          【実施状況】</p> <p>○市内全公立小・中学校に、学校規模に応じて、週当たり1～5日ALTを配置した。          ○小学校3～6年生が、週に一度の外国語活動の時間に、担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、ALTを配置した。中学校では、全ての生徒が週に一度以上は教科担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、ALTを配置した。          ○本物の英語に触れることで、子どもたちの国際性が高まり、英語によるコミュニケーションを図ろうとする意欲が出てきている。          ○国も、義務教育段階の英語教育の推進を図っている。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	ALTの年間授業時間の目標値を達成した割合	85.3%	目標の授業時間を12,240時間としていたが、10,437時間の授業を行ったため、85.3%の達成割合となった。	
	外国語(英語)の学習を楽しんでいる児童の割合(小3～小6)	96.0%	学年によって割合は違うが、調査対象全学年で90%を超えている。全国的なデータと比較すると、深谷市では英語好きの児童が非常に多い。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	ALTによる授業を必要とする学級数(274学級、29校)から、最も効率よく運営するための最少人数(16名)を算出し、これまで以上の回数を全ての学校に配置することができた。また、英語好きな児童生徒が非常に多いことから、ALTの存在と彼らを活用する学級担任の指導技術が上手くかみ合っていると言える。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	小学校高学年の英語教科化に向けた研究の推進		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 小学校3年からの早期外国語教育を推進し、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の素地を養い、国際性を育む。			
平成28年度の実績	<p>○教育課程の特例 文科省から研究開発の指定を受け、教育課程の特例を設けている。このため、他の自治体と違い、深谷市では小学校3年生から週1回、外国語活動を行った。</p> <p>○深谷市英語教育一貫教育プランの作成 全小・中学校の標準的な指導モデルを作成し、各学校の特色を生かしながら外国語(英語)の授業を行った。</p> <p>○教科化準備委員会の実施 各小学校から1名の教員を委員として招集し、教科化に向けての取組推進のための協議を行った。</p> <p>○指導法研究会の開催 ・全小学校教員を対象として、小学校外国語活動指導法集中研究会を2日間実施した。(平成22年度からの継続事業)</p> <p>・市内を5ブロックに分けて拠点校を設け、授業研究会を実施している。小・中学校教員が、校種を越えて授業を参観し、研究協議を行う中で、教員の立場からの小中連携を深めるとともに、指導法の改善を図った。</p> <p>○こころざし深谷国際塾の実施 ・渋沢栄一翁の心を受け継ぎ、次代を担う人材育成を目的としている。対象は小学校5年生から中学校2年生までの希望者。平成28年度は、小学生12名、中学生15名、合計27名が参加した。JICA(国際協力機構)と連携して実施している深谷市独自の取組である。</p> <p>○英語王国の実施 ・体験を通して英語を楽しく学習することを目的としている。対象は小学校3～6年生の希望者。夏季休業期間中に4日間実施し、平成28年度は、延べ200名が参加した。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合	87.7%	全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では9割近くの児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。	
	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒(中1)の割合	90.1%	小6よりも数値が上がり、9割の生徒が授業に積極的に取り組んでいる。小中一貫の視点から、小・中学校の接続がうまくいっていると言える。	
担当課評価	評価区分  1	ブロック毎に研究を進め、研修を行うことで指導力の向上が図られるとともに、教科化準備委員会の取組を踏まえ、指導要領改訂に向けての小学校の指導の改革が進められてきている。今後も文部科学省の動向をとらえながら、教育課程の編成や、小学校の指導において、適切な改善を加えられるようになっていく必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



<b>施策名</b>	夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	<b>点検評価表 作成課</b>	学校教育課					
<b>施策の方向性</b>	○子どもたちの科学技術に関する興味・関心を高め、豊かな科学的素養や思考力を育成する。 ○児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについての理解を深める。 ○将来にわたって豊かな暮らしを実現する持続可能な社会の構築を目指した環境教育を推進する。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○科学技術教育の推進 ○情報教育の推進 ○環境教育の推進 ○社会的課題に対応する教育の充実							
<b>指標名</b>	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	国の行うICT調査における教員の指導力についての状況	87.7%	91.3%	89.5%	89.2%	90.5%	92.2%	
		<b>現状値 (平成27年度)</b>	84%		<b>→</b>	<b>目標値 (平成29年度)</b>	100%	

<b>平成28年度 重点施策</b>	○小・中学校ICT整備事業 ○情報モラル教育の推進		
<b>平成28年度 実績</b>	○科学技術教育の推進 ・全小・中学校において、小学校6年生及び中学校3年生を対象として、風力・太陽光発電に関する啓発授業を実施することができた。 ○情報教育の推進 ・小学校7校、中学校6校の教師指導用タブレットの入替えを行い、ICTを活用して授業等ができる環境を充実させた。 ・小学校4校、中学校2校の児童生徒学習用タブレットの入替えを行い、ハイブリッド型PCを導入し、様々な場面でパソコンを活用して授業を行える環境を充実させることができた。 ・小学校11校の普通教室の書画カメラの入替えを行い、各教科で教科書や様々な教材を拡大して提示できる環境を充実させることができた。 ・ICTを活用した授業が、小・中学校とも、およそ2時間に1回行われた。 ○社会的課題に対応する教育の充実 ・校務支援システムを更新し、全ての小・中学校において指導要録と出席簿の電子化が定着し、全校で実施されている。 ・小・中学校の教職員を対象として、情報モラルに関する研修、タブレットの活用についての研修を行った。		
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない	
<b>課題</b>	文部科学省の教育の情報化ビジョン(H23.4)に示された、21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末、校務支援システム等)の実現および新学習指導要領に対応した機器の入替え・整備を今後も継続していく必要がある。		
<b>評価コメント</b>	・パソコンの整備については、見直しを行い、機器を有効に活用できるようハイブリッド型PCの導入を進めた。 ・研修を充実させることにより、教職員が授業でICTを活用する場面が増えており、小・中学校ともに、およそ2時間に1回の割合でICTを活用した授業が行われている。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。		

<b>意見・提言</b>	・成果指標である授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合は、92.2%となっており、高い成果が上がっている。 ・深谷市はICT機器の整備が充実している。今後も手厚い整備を続けてほしい。
--------------	--

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	小・中学校ICT整備事業	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】 ICT環境の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の向上を図るとともに、教師が教科指導等においてICTを活用することにより、学習活動を充実させる。さらに、教職員用コンピュータに校務支援システムを導入し、教員の負担を軽減することにより子どもと向き合う時間を確保する。		
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校7校、中学校6校の教師指導用コンピュータの入替えを行い、タブレットPCにもなるハイブリッド型PCを導入した。</li> <li>・小学校4校、中学校2校の児童生徒学習用コンピュータの入替えを行い、タブレットPCにもなるハイブリッド型PCを導入した。</li> <li>・小学校11校の書画カメラの入替えを行った。</li> <li>・全小・中学校ホームページを平均1日1回以上の頻度で更新し、アクセス数が平均1日1,100件を超えた。</li> <li>・全小・中学校のホームページに「緊急連絡サイト」を活用し、大雨等の緊急時に活用した。</li> <li>・ICTを活用した授業が小中学校とも、およそ2時間に1回行われた。</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	PC1台あたりの児童生徒数	5.4人/1台	PC整備率は、県内40市の中でトップクラスの整備率となっている。県は9.2人/1台である。
	授業中にICTを活用して指導できる教員の割合	92.2%	普通教室のICT環境を整備後、研修等を実施し、高い水準を維持している。県は74.4%である。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	ハイブリッド型PCなどの導入により、PCの活用幅が広がった。文科省の教育の情報化ビジョン(H23.4)に示された、21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末)の実現に向け、今後も機器の入替えに伴う整備を継続していくとともに、ネットワーク環境の更新や新学習指導要領に対応した整備を進めていく必要がある。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	情報モラル教育の推進	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	児童生徒に情報モラルについての正しい判断力を身につけさせるための、情報モラル教育を充実する。		
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度新たに深谷市の教職員となった新任教員及び転任教職員等に、「情報モラルについて」と題し、児童生徒が正しい判断力を身につけることができるよう人権教育研修を行った。</li> <li>・携帯電話の所持率やトラブルの増加傾向をうけて、全小・中学校の全児童生徒及び保護者を対象として、非行防止教室を実施し、ネットトラブルにおける情報モラルに係る指導を行った。</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	情報モラル教育の実施状況	100%	予定された教職員に対する研修及び児童生徒への指導を行うことができた。
	非行防止教室保護者参加人数	2,265人	平成27年度は2,193人であったことから、毎年、継続的に保護者への啓発がなされているため、成果につながっている。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	教職員の研修、児童生徒への指導、保護者への啓発等、予定通り実施することができた。携帯電話の普及率やネットトラブルの現状から、今後も各事業を継続していくことが必要である。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>施策名</b>		高い志をもつキャリア教育の推進						点検評価表 作成課	学校教育課
<b>施策の方向性</b>		○小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を推進する。 ○将来働くことについて意欲や関心を持てるように、学校・地域・企業などが一体となって、実際の職場での体験活動を推進する。							
<b>施策に関連する主な取組</b>		○発達段階に応じたキャリア教育の充実							
		○小・中・高における「なめらかな接続」の推進							
		○職場体験活動の充実							
<b>指標名</b>		「将来の夢や目標をもっている」生徒の割合							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	「将来の夢や目標をもっている」という設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合を併せた回答率	未実施	未実施	76.6%	79.5%	78.1%	79.0%		
		現状値 (平成27年度)	中学生 76.6%			→	目標値 (平成29年度)	中学生 80%	

<b>平成28年度 重点施策</b>	○小・中学校のキャリア教育の充実 ○校種間のなめらかな接続 ○体験を重視したキャリア教育の推進
------------------------	---

<b>平成28年度 実績</b>	○発達段階に応じたキャリア教育の推進 ・小学校低学年での「がっこうたんけん」、中学年での「まちたんけん」、高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施した。 ・全小学校において、4年生を対象に1/2成人式を実施し、中学2年生での立志式等へとつなげた。 ・中学校1年生での「職業調べ」、2年生での「立志式」等、3年生での「高校説明会への参加」といった活動を全校で実施した。 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進 ・各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。 ・中高連絡協議会の実施(深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。) ○職場体験活動の充実 ・中学生社会体験チャレンジの実施(全中学校において2年生を対象に、事前事後の活動を含め5日間実施、事業所等の代表からなる推進委員会を2回実施した。)
----------------------	---

<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

<b>課題</b>	・小学校段階、中学校段階、それぞれキャリア教育の取組が行われているが、それぞれの取組に結びつけられるよう意識した指導が必要である。小・中学校の連携を図り、小中一貫の視点を持ち、今後更なる工夫をしていくことが必要である。 ・社会体験チャレンジにおいては、多様性のある事業所の確保が課題となっている。
-----------	---

<b>評価コメント</b>	・全小・中学校において、小学校4年生で1/2成人式、中学校2年生で立志式等を実施できた。 ・中学生社会体験チャレンジ事業(職場体験学習)では、推進委員会での情報交換や深谷商工会議所やふかや市商工会等の協力を得て、より円滑に生徒の希望に応じた職場体験を実施することができた。平成28年度は370箇所の受け入れ事業所に協力をいただき、計画通り安定した取組とすることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	---

<b>意見・提言</b>	・キャリア教育については、様々な取組を行い、十分に成果を上げられている。 ・進学指導において生徒の興味・関心のあることを見つけ、将来を見据えた指導をしてほしい。 ・商店街の過疎化が進行しており、職場体験活動の受け入れ場所が十分に用意できるか心配である。
--------------	--

# 重点施策評価表

重点施策名	小・中学校のキャリア教育の充実		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 小学校における1/2成人式、中学校における立志式等を通して、児童生徒の夢やこころざしを育む。			
平成28年度の実績	<p>〈発達段階に応じたキャリア教育の推進〉</p> <p>①全小学校において、4年生を対象に1/2成人式を実施した。          ②産業祭に参加(深谷小学校6年生が地域での勤労、交流、体験を通しての発表を行った。)          ③中学校1年生での「職業調べ」、2年生での「立志式」等、3年生での「高校説明会への参加」といった活動を全校で実施した。</p> <p>〈小・中・高における「なめらかな接続」の推進〉</p> <p>①各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。          ②中高連絡協議会の実施(深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。)</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	小学校における1/2成人式の実施率	100%	小学校全校で実施し、自己の成長について見つめ直す機会とすることができた。	
	中学校における立志式等の実施率	100%	中学校全校で実施し、将来について考えを深め、自立・自律を促す機会となった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	1/2成人式、立志式等を全小・中学校で実施し、自己の夢やその実現に向けてのこころざしを持たせるための機会とすることができた。 また、中高連絡協議会の実施により、生徒一人一人に適した進路指導をするための一助とすることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	校種間のなめらかな接続		担当課	学校教育課
概要	<p>全中学校区で小中一貫教育を推進し、中1ギャップの解消を図るとともに、中高連絡協議会を実施し、中高の連携を図る。また、市内幼稚園、保育園及び小・中学校関係者による研究協議を行い、幼・保・小・中のなめらかな接続と教育の充実・発展を図る。</p>			
平成28年度の実績	<p>&lt;小・中・高における「なめらかな接続」の推進&gt;            ○全中学校区において、9年間の学びと育ちの連続性を重視した小中一貫教育の実施（小中一貫教育推進事業の実施【再掲】）            ・カリキュラムの研究 ・児童生徒の交流 ・教員間の交流 ・小中連携シートの活用 等            ○「中高連絡協議会」の開催（4回）            ・深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催した。（対象：各中学校長、各高等学校長を基本とする）            ・進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。            ○小学校教科支援エキスパート（全小学校）、小学校理科支援員（全小学校）の配置            ・小学校における授業の一部で専科指導を実施することにより、小学校（学級担任制）から中学校（教科担任制）への「なめらかな接続」を図った。</p> <p>&lt;幼・保・小・中における「なめらかな接続」の推進&gt;            ○幼保小中連携推進協議会の開催（2回）            中学校区10ブロックに分かれて分科会を行い、幼・保・小・中連携について協議した。（対象：各幼稚園・保育園の園長又は主任、各小・中学校の管理職等）</p>			
		実績値	指標別コメント	
	中学校不登校生徒の割合	1.20%	平成27年度の割合(1.25%)と比較すると、少したが減少した。	
	中高連絡協議会の開催回数	4回	なめらかな接続を推進するため、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会をそれぞれ2回ずつ開催した。（1回目…6・7月、2回目…10月）	
	幼保小中連携協議会の開催回数	2回	なめらかな接続を推進するため、年度の前半（夏季休業中）と後半（2月）に協議会を実施した。	
担当課評価	評価区分  1	評価コメント 幼・保・小・中・高のなめらかな接続の推進により、不登校児童生徒の削減や、中1ギャップの解消などが図られた。また、中高連絡協議会の開催により、市内中学校出身の生徒に関する情報交換や、本年度の入試状況等についての共通理解を図ることができた。さらに、幼・保・小・中連携協議会の開催により、地域で育つ子供の保育と教育について、共通理解を図ることができた。		
評価区分の考え方（1：現状継続 2：見直して継続 3：拡充・重点化 4：事業達成により終了 5：廃止を検討）				



# 重点施策評価表

重点施策名	体験を重視したキャリア教育の推進		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】職業にふれる体験活動を通して、児童生徒に夢をもたせ、社会的・職業的自立に向けた力を育てる。			
平成28年度の 実績	<p>〈体験活動の充実〉</p> <p>①中学生社会体験チャレンジの実施(全中学校において2年生を対象に、事前事後の活動を含め5日間実施、事業所等の代表からなる社会体験チャレンジ推進委員会を2回実施した。)</p> <p>②小学校低学年での「がっこうたんけん」、中学年での「まちたんけん」、高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施した。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	社会体験チャレンジの参加人数	1,322人	中学2年生全員を対象として実施した。	
	社会体験チャレンジの参加割合	100%	全生徒が参加することができた。	
	協力事業所数	370事業所	事業所数も毎年安定して協力していただいている。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>望ましい職業観・勤労観を育成するために、発達の段階に応じた取組がなされた。</p> <p>中学生で行う社会体験チャレンジは、深谷商工会議所やふかや市商工会等の協力を得て、多様な職場体験を行うことができた。</p>		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅰ 社会を生き抜く力の育成

I-6

<b>施策名</b>	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	<b>点検評価表</b> 作成課	学校教育課					
<b>施策の方向性</b>	○各学校において、個別の教育的支援が必要な児童生徒に対する支援体制を整える。 ○特別支援学級や通級指導教室について、ニーズを把握しながら、新設、増設等の準備を進めていく。							
<b>施策に関連する主な取組</b>	○特別支援教育体制の整備・充実		○他機関との連携					
	○就学支援・相談の充実		○支援籍学習の推進					
	○特別支援教育の視点に立った指導の充実		○教育研究所の機能の充実					
	○特別支援補助員の活用							
<b>指標名</b>	通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成率							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	「特別支援教育の推進」について効果を検証するため、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対する個別の教育指導計画の作成率	52.1%	57.7%	64.8%	80.0%	80.0%	82.5%	
		現状値 (平成23年度)	52%		→	目標値 (平成29年度)	100%	

<b>平成28年度重点施策</b>	○児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実 ○早期からの就学支援・就学相談の充実 ○支援籍学習推進事業		
<b>平成28年度実績</b>	○就学支援・相談の充実 ・就学支援委員会を4回、小委員会を2回実施した。 ・巡回相談を68回(幼稚園10回、小学校38回、中学校20回)、学級学校支援相談を38回実施した。 ○特別支援教育の視点に立った指導の充実 ・特別支援教育コーディネーター合同研修会(通常の学級担任研修会を含む)を2回、巡回相談員研修会を1回実施した。 ・特別支援教育担当者研修会を1回、特別支援教育担当者経験3年以下研修会を2回実施した。 ○特別支援補助員の活用・・・特別支援補助員研修会を1回実施した。 ○教育・福祉や医療機関・療育機関等との連携・・・80回実施した。 ○支援籍学習の推進・・・通常学級支援籍学習は48名、特別支援学級支援籍学習は16名の参加があった。 ○教育研究所の機能の充実・・・WISC(知能)検査を96件実施した。		
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない	
<b>課題</b>	・通常の学級担任及び担当者の、特別な教育的支援が必要な児童生徒への指導力のさらなる向上が必要である。 ・障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた教育的支援を継続的に行うために、小学校から中学校、中学校から高校にそれぞれなめらかに移行できるよう、支援をさらに充実させていく必要がある。		
<b>評価コメント</b>	・子どもの教育的ニーズに合わせた多様な学びの場(支援籍学習や特別支援学級の弾力的な運用、通級指導教室など)を活用することにより、子ども一人一人の教育的ニーズに合った教育的支援に取り組む体制が整ってきている。 ・成果指標である、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対する個別の教育指導計画の作成率は、前年度から2.5ポイント上がって82.5%となった。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。		

<b>意見・提言</b>	・成果指標である通常学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成率が、平成27年度より2.5ポイント上昇したことは、評価できる。 ・障害のある児童生徒の補助を学校内の職員で行えるような支援体制は、素晴らしい。さらに、障害のある児童生徒に関する理解を深め指導方法を考えていって欲しい。
--------------	--

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた個別の教育支援計画や教材教具等の整備の充実を目指す。		
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級及び通常の学級に在籍する児童生徒で、特別の教育的支援を必要とする児童生徒の教育支援計画等を作成した。</li> <li>・幼児・児童・生徒一人一人のニーズを把握し、支援の目標と方法について検討し、幼稚園、小・中学校内での支援を行う巡回相談を実施した。</li> <li>・特別な教育的支援が必要な児童生徒に対し、各小・中学校における特別支援学級への弾力的な運用の活用をした。</li> <li>・教職員研修を次のとおり実施した。 特別支援教育コーディネーター等合同研修会 2回 特別支援教育担当者研修会・・・経験3年以下研修会 2回、担当者研修会 1回</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	通常の学級で障害のある児童生徒の個別の教育支援計画作成率	82.5%	通常の学級に在籍している障害を持った児童生徒の、一人一人の教育的ニーズに合わせた教育支援計画を作成する。
巡回相談実施回数(幼・小・中の合計)	68回	幼児・児童・生徒一人一人のニーズを把握し、支援の目標と方法について検討し、園・校内での支援体制を整備する。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	巡回相談や教職員研修を行い、発達障害等を理解するとともに、支援方法を習得を図った。それらを指導力の向上に活かし、児童生徒の一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実が図られている。	

評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)

<b>重点施策名</b>	早期からの就学支援・就学相談の充実	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	特別支援教育の早期支援に向け、研究主題を「教育・福祉の連携を生かした早期からの教育相談・支援体制づくり」とし、ヨコ(教育・福祉)とタテ(幼保小中高)の連携を生かした0歳から15歳までの子供を一貫して育てる支援体制づくりを行う。		
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヨコ(教育・福祉)の連携として <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・福祉連携推進委員会による各関係機関との連携を行った。</li> <li>・就学支援の充実や就学を迎える保護者の集い、保護者支援の充実(保護者講演会・教育相談)、深谷市の支援マップの作成及びサポート手帳の活用等を行った。</li> </ul> </li> <li>○タテ(幼・保・小・中・高)の連携として <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小中連絡協議会の開催、小中連携巡回相談、ケース会議の充実及び中高連絡協議会等を開催した。</li> </ul> </li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	就学を迎える保護者の集い参加者数	35名	参加者35名のうち、26名が個別相談へとつながった。その26名については、就学が決まるまで丁寧に面談を行った。
幼保小中連絡協議会の開催回数	2回	連絡協議会をきっかけに、幼・保・小・中間の情報交換が行われ、学校見学にもつながった。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	早期からの支援を行うためには、就学前から本人・保護者を取り巻く幼稚園・小・中学校・各関係機関等との連携が基盤となっている。ヨコとタテの連携を強化するとともに、子どもの教育的ニーズを把握し、寄り添いながら支援を行うことができた。	

評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)

# 重点施策評価表

重点施策名	支援籍学習推進事業		担当課	学校教育課
概要	インクルーシブ教育(障害のある人とない人が同じ場で学ぶ)を推進し、子どもの教育的ニーズに合わせた教育支援を行うため、多様な学びの場として、特別支援学校や通常の学級での学習を推進する。			
平成28年度 の実績	<p>○特別支援学校支援籍: ・小・中学校の児童生徒が、特別支援学校の学級に入り、学習を行った。</p> <p>○通常学級支援籍: ・特別支援学校の児童生徒が、通常の学級に入り、学習を行った。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	特別支援学校支援籍者数	16名	深谷はばたき特別支援学校、本庄特別支援学校、熊谷特別支援学校で学習を行った、通常学級の児童生徒数は、前年度は5名であったが、今年度は16名であった。	
	通常学級支援籍者数	48名	通常学級で学習を行った、深谷はばたき特別支援学校、本庄特別支援学校、熊谷特別支援学校の児童生徒数は、前年度は51名であったが、今年度は48名であった。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	多様な学びの場を提供することにより、一人一人の教育的ニーズに合わせた教育的支援を行うことができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



<b>施策名</b>	まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進		<b>点検評価表 作成課</b>	学校教育課					
<b>施策の方向性</b>	○「青淵学びの郷づくり」を推進する。 ○地域の特色を生かし、学校の教育活動全体を通した道徳教育を推進する。 ○子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むため、地域の特色を生かした体験活動の充実を推進する。 ○学校における子どもたちの豊かな読書活動を推進する。 ○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)を推進する。								
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○「青淵学びの郷づくり」の推進		○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)の推進(再掲)						
	○道徳教育の推進								
	○体験活動の推進								
	○読書活動の推進								
<b>指標名</b>	「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般応募作品数の増加								
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内の在勤・在住者対象の、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般の部への応募作品数 ※()は高校生・大学生を除く一般数	589作品 (一)	1,349作品 (130)	1,342作品 (149)	1,264作品 (114)	862作品 (80)	837作品 (88)		
		<b>現状値</b> (平成27年度)	589作品		<b>➡</b>	<b>目標値</b> (平成29年度)	1,000作品		

<b>平成28年度 重点施策</b>	○深谷の子「6つの誓い」の活用 ○「深谷ころざし読本」及び「まごころ先生」の活用 ○「まごころ訪問」の実施 ○子ども読書活動の推進	
<b>平成28年度 実績</b>	○「青淵・学びの郷づくり」の推進 ・「青淵・学びの郷づくり」心の教育推進協議会を実施した。(2月3日) ・「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙文の募集(応募総数12,057点)及び表彰、作品集(第9集)の作成及び配布を行った。 ○道徳教育の推進 ・「渋沢栄一ころざし読本」または「深谷ころざし読本」を、全小・中学校で活用した。 ・全小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。(小学校22回、中学校17回) ・「青淵・ころざし歳時記」を小学校1年生及び4年生、中学校1年生に配布し、朝の読書活動など教育活動で活用した。 ・「深谷ころざし読本」を小学校4～6年生に配布し、道徳の時間を中心に各教育活動で活用した。 ・「青淵・ころざし歳時記」及び「深谷ころざし読本」を、図書館、公民館等公共施設に設置するとともに、HPに掲載した。 ○まごころ訪問の実施 ・全小学校でまごころ訪問を実施した。 ○読書活動の推進 ・全小・中学校に司書教諭を発令し、学校図書館補助員を配置した。 ・1人当たりの年間貸出し冊数 小学校47.3冊、中学校5.4冊。 ○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)の推進(再掲) ・小・中学校合わせて108項目中、108項目全てにおいて達成率80%を上回った。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	・「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」における、高校生、大学生、一般の応募数を増やすことが必要である。 ・子どもたちの心の教育を充実させるために、「ころざし読本」及び「まごころ先生」の積極的な活用とともに、道徳の時間の指導力の向上を図ることが必要である。	
<b>評価コメント</b>	・「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、「ころざし読本」及び「まごころ先生」の積極的な活用のほか、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙作文の募集、「まごころ訪問」などを積極的に行い、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。 ・成果指標については、目標値を超えることができなかったが、多くの応募をいただいた。今後は高校生や大学生を除いた一般作品の数を増やしたい。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・成果指標である「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般応募作品が減少しているため、増やして欲しい。 ・深谷の子「6つの誓い」は、家庭で取り組むことでさらに成果が期待できる。今後も親子での取組を拡大してほしい。 ・渋沢栄一翁が大切にしまごころと思いやりは、深谷に定着してきている。
--------------	--

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	深谷の子「6つの誓い」の活用	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】学校・家庭・地域が一体となり、第2、第3の渋沢栄一翁を育てる基盤づくりを力強く推進するために、栄一翁の心を受け継ぐ深谷の子「6つの誓い」の取組を行う。		
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各幼稚園、小・中学校、市役所、公民館及び総合支所にチラシを配布した。</li> <li>各幼稚園、小・中学校の全園児・児童・生徒にチラシを配布し、各家庭に周知した。</li> <li>深谷市教育委員会のホームページに掲載し、各校の「6つの誓い」についての取組を紹介するとともに、各園、小・中学校のホームページでも随時取組を紹介した。</li> <li>市内の各種団体(子どもサポート市民会議、深谷市PTA連合会等)の集会でチラシを配布し、取組を紹介した。</li> <li>「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」の内容例の中に、「6つの誓い」の取組を通した「ありがとう」の思いを入れ、募集を行った。</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	市立学校へのチラシの配布率	100%	各幼稚園、小・中学校の全園児、児童、生徒に配布することができた。
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
<b>担当課評価</b>	1	各小・中学校での実践を、深谷市教育委員会のホームページで紹介するなど、各校の取組を支援することができた。各種団体の集会時にチラシを配布するなど、市民にも周知することができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

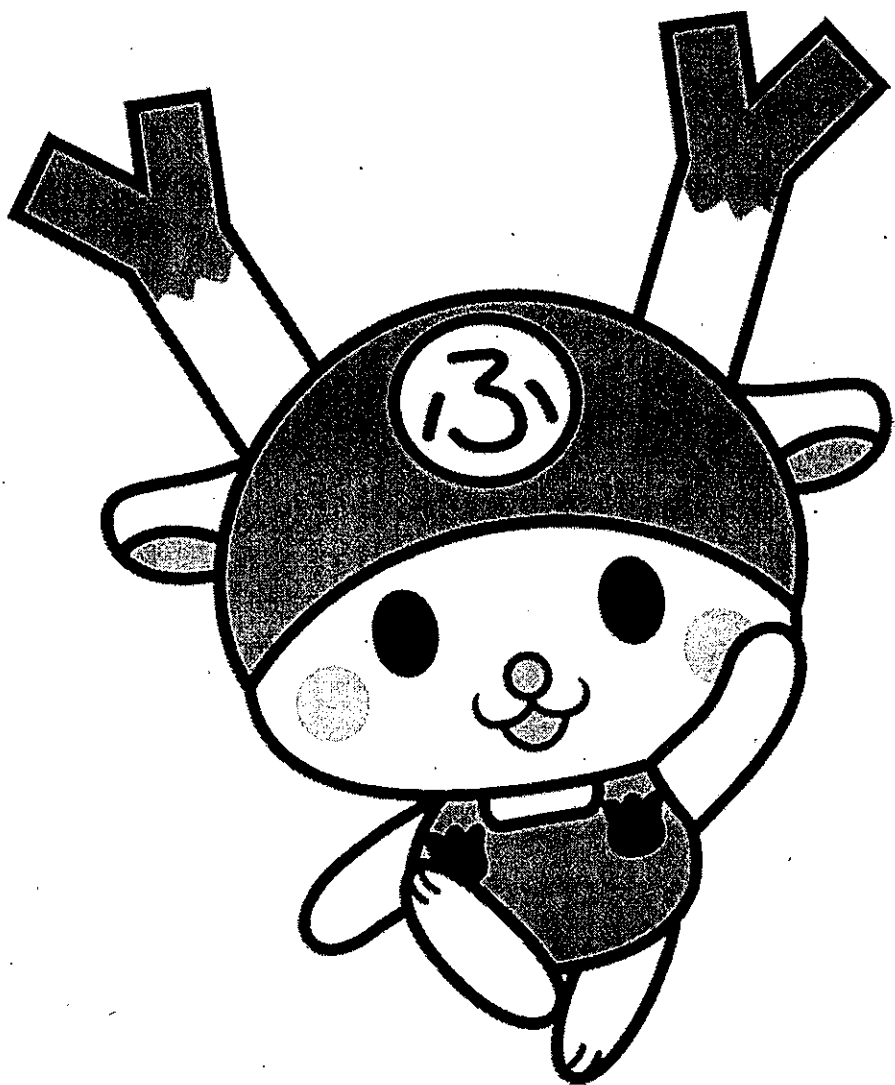
<b>重点施策名</b>	「深谷こころざし読本」及び「まごころ先生」の活用	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】深谷市の特色を生かして、豊かな心を育むために、地域人材を活用したまごころ先生(市民との協働)の派遣を推進する。		
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>渋沢栄一記念館資料解説員をはじめ、元教育長や元校長を講師として派遣し、深谷市の地域の特色を生かした道徳教育の推進や、道徳の時間の充実が図られた。</li> <li>「深谷こころざし読本」の積極的な活用が図られた。</li> <li>全小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。(小学校22回、中学校17回)</li> <li>深谷市道徳教育研修会を7月31日に実施し、「まごころ先生」の効果的な活用を図った事例を示した。(小学校20名、中学校14名参加)</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	「まごころ先生」を派遣した学校の割合	100%	全小・中学校に派遣することができた。
	「深谷こころざし読本」年間指導計画に位置づけた学校の割合	100%	全小・中学校で計画し、実施することができた。
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
<b>担当課評価</b>	1	「青淵学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、全小・中学校に「まごころ先生」を派遣することで、「深谷こころざし読本」の活用もより積極的になり、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			


# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	まごころ訪問の実施		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】児童が育てた花と手紙を高齢者に贈る活動を通して、児童のまごころと思いやりを育てる。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を大切にする思いやりの心を育み、地域の絆を深めるために、市の65歳以上のひとり暮らしの高齢者世帯に花と手紙を届けた。</li> <li>・全小学校(19校)で実施した。(合計1,766世帯)</li> </ul> <b>【実施内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が、市教育委員会から配布された花の苗を鉢に植え替え、一定期間育て、一人暮らしの高齢者に向けた手紙を書いた。</li> <li>・児童が、各地区で行われる民生委員・児童委員の定例会に出向き、民生委員・児童委員に花と手紙を渡した。</li> <li>・民生委員・児童委員が、一人暮らしの高齢者のお宅への訪問時に、児童から預かった花と手紙を届けた。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
「まごころ訪問」を実施した小学校の割合	100%	全小学校でまごころ訪問を実施することができた。		
<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>			
<b>担当課評価</b>	1	平成25年度から、全小学校でまごころ訪問を実施している。自分たちで育てた花と手紙を高齢者に贈る活動を通して、児童のまごころと思いやりを育てることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	子ども読書活動の推進		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】「深谷市子ども読書活動推進計画」のもと、学校図書館の充実を図り、児童生徒が読書活動に親しめるようにする。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小・中学校に図書館補助員を配置した。</li> <li>・学校図書館補助員研修会では、図書館補助員の業務等の充実を図るとともに、優れた取組を共有した。また、中学校区ごとの意見交換を2回実施し、小・中の連携が図られた。(第1回平成28年10月28日。第2回平成29年3月24日。)</li> <li>・児童生徒への朝読書の実施や、読書月間・旬間・週間の設定、学年ごとの年間目標冊数の設定等、読書活動の充実が図られた。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
市臨時職員(図書館補助員)の配置	29校/29校	全小・中学校に配置することができた。		
一人当たりの年間図書貸出し数 小学校	47.3冊	前年度より増加した。		
一人当たりの年間図書貸出し数 中学校	5.4冊	前年度より減少した。(一昨年と同数)		
<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>			
<b>担当課評価</b>	1	学校図書館補助員研修会では、図書館補助員の業務等の充実を図ると共に、優れた取組の共有を行うことができた。また、そのことにより、一人当たりの貸出し数は、小学校は前年度より増え、中学校では前年度より減少したため、「現状維持」とした。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				





<b>施策名</b>		いじめ・不登校の防止		<b>点検評価表作成課</b>		学校教育課			
<b>施策の方向性</b>		○いじめ防止のため、児童生徒の人権感覚を育成するとともに、学校や家庭でのいじめの早期発見・早期対応に向けた取組を行う。また、教育相談活動を推進する。 ○不登校を未然に防止し、早期に対応するため、教育相談活動などを推進する。 ○中学校における不登校や、高校における中途退学を防ぐために、学校間の連携を深め、キャリア教育の充実に努める。							
<b>施策に関連する主な取組</b>		○いじめ対策の推進 ○教育相談活動の推進 ○不登校対策の推進 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進(再掲)							
<b>指標名</b>		不登校児童生徒の割合							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	不登校(病気や経済的理由などを除く年間30日以上欠席)児童生徒の100人当たりの割合	深谷市	2.4%	2.1%	1.6%	1.2%	1.3%	1.2%	
		埼玉県	2.4%	2.4%	2.4%	2.3%	2.4%	2.4%	
		<b>現状値</b> (平成23年度)	中学生2.4% (深谷市)				<b>目標値</b> (平成29年度)	中学生2.2% (深谷市)	

<b>平成28年度重点施策</b>	○いじめ防止基本方針に基づく関係会議の充実 ○教育相談員配置の充実 ○総合的な不登校対策の推進
-------------------	---

<b>平成28年度実績</b>	○いじめ対策の推進 ・深谷市いじめ問題対策連絡協議会と、深谷市いじめ問題専門委員会を開催した。 ・全中学校に学校総合支援員を配置した。 ・小学校2校、中学校9校にスクールライフサポーターを配置した。 ・いじめ状況等の調査の実施及び見届け(全小・中学校、毎月)を行った。 ○教育相談活動の推進 ・「深谷いーネット」専門相談ダイヤルを開設した。 ○不登校対策の推進 ・「不登校対策小中連携シート」と「アセス(学校適応感尺度)」を活用し、学級全体の適応感や児童生徒個人の適応感を測り、いじめ・不登校の未然防止につなげた。 ・「小1プロブレム」対応のための学校アシスタントティーチャー(全小学校)と、小1問題対応非常勤講師(小学校7校)を配置した。 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進(再掲) ・「中1ギャップ」対応のための小学校教科支援エキスパート(全小学校)と、小学校理科支援員(全小学校)を配置した。
-----------------	---

<b>総合評価</b>	<b>A</b> ※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	--

<b>課題</b>	いじめ認知件数は増加傾向にあり、いじめの早期発見、早期対応がより重要となる。生徒指導体制、教育相談体制の充実を図り、学校、家庭、地域社会、関係機関等が連携して取り組んでいく必要がある。
-----------	--

<b>評価コメント</b>	・いじめ対策については、深谷市いじめ問題対策連絡協議会や深谷市いじめ問題専門委員会を開催するなど、多くの取組を行った。 ・不登校対策については、不登校児童生徒の割合が昨年度とほぼ同じであったが、県平均を下回っている。今後割合を減少させることが課題となってくる。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	--

<b>意見・提言</b>	・成果指標である不登校児童生徒の割合は県平均より低く抑えられており、長年の指導の結果だと言える。今後も努力してほしい。 ・いじめは、家庭内暴力などに起因する場合もあるので、家庭の状況や子供の状態の把握にも努めてほしい。
--------------	--

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	いじめ防止基本方針に基づく関係会議の充実		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	いじめ防止対策推進法第14条に基づき、いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携を図り、いじめを未然に防止し、早期発見、迅速に対応するための方策を協議する。			
<b>平成28年度の実績</b>	<p>○平成28年度開催日程 【6月2日】第1回いじめ問題対策連絡協議会(深谷市教育庁舎)を行った。 【12月16日】第2回いじめ問題対策連絡協議会(深谷市教育庁舎)を行った。</p> <p>○平成28年度深谷市内のいじめ認知件数は、小学校61件、中学校70件、計131件であった。平成27年度と比較すると約3倍に増えているが、これは、「いじめの定義」の周知や、実態把握のためのアンケート回数の増加、教師のいじめ認知への意識の向上により、認知数が増えたと考えられる。</p> <p>○全小・中学校において、学校いじめ防止基本方針を策定し、学校いじめ防止等対策委員会を実施した。また、各学校でアンケート調査を行うことにより、いじめを未然に防止し、早期に発見することができた。</p> <p>○深谷市では、ネットトラブルやネットいじめ等を防ぐため、子どもたちが中心となり、学校、家庭、地域が一体となって、インターネット使用のルール「安心ふっかネット」の啓発に努めた。「深谷市PTA連合会情報交換会」において、「家庭の安心ふっかネット」を基本とした取組について、各小・中学校のPTA役員や校長等、150人近い参加者全員がグループに分かれて意見交換を行った。</p>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	いじめ認知件数	131件	いじめ定義の周知やアンケート回数の増加、いじめ認知への意識の向上により、いじめの早期発見、早期対応に努めることができた。	
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
<b>担当課評価</b>	1	深谷市いじめ問題対策連絡協議会により、学校と関係機関が連携していじめ問題に対応できた。この協議会は、国の「いじめ防止のための基本方針」の改定に伴う深谷市いじめ防止基本方針の改定において、各関係者からの意見を吸い上げるための場として重要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	教育相談員配置の充実		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	全中学校に教育相談員を配置し、いじめ・不登校等の未然防止に向けた支援の充実を目指す。			
<b>平成28年度の実績</b>	<p>・教育相談員を全中学校に配置し、教育研究所や中学校区の小学校と連携を図り、不登校や不適應を未然に防ぐ教育相談活動を行うことができた。</p> <p>・教育研究所主催の研修会を、学校相談員に対して5回実施し、資質の向上に努めた。</p>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	教育相談員による教育相談件数	3,918件	利用者のいない日は開設しないため、去年の4,204件と比較すると件数は少なかった。	
	中学校不登校生徒数の割合	1.20%	平成27年度の割合(1.25%)と比較すると、少しだが減少した。	
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
<b>担当課評価</b>	1	教育相談員による教育相談件数は、平成27年度の4,204件と比較すると減少しているが、不登校生徒数の割合を平成27年度の1.25%と比較するとほぼ同数なので、同様の効果がみられたと言える。また、教育相談員の資質の向上を図るために、教育研究所において5回の研修会を実施した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	総合的な不登校対策の推進		担当課	学校教育課
概要	<p>小中一貫教育を推進するとともに、学校総合支援員、教科支援エキスパート、アシスタントティーチャーなどを配置し、不登校の未然防止、早期対応を図る。</p>			
平成28年度の実績	<p>【学校総合支援員】 ・全中学校(10校)に配置し、不登校などに係る家庭訪問や、学校運営上の様々な問題に対応した。</p> <p>【スクールライフサポーター】 ・小・中学校11校に配置し、不登校など児童生徒の個々に応じた学校生活全般に関する支援を行った。</p> <p>【小学校教科支援エキスパート】 ・全小学校(19校)に配置し、専門的な指導を充実させるとともに、小・中のなめらかな接続に対応し、中1ギャップを軽減した。</p> <p>【アシスタントティーチャー】 ・全小学校(19校)に配置し、教科における少人数指導や低学年(1・2年生)の生活指導の支援を行い、個に応じた指導や基礎学力の定着、学習習慣の育成を図った。</p> <p>【不登校対策小中連携シート】 ・小学校における児童の出席状況等を、中学校が適切に把握するための不登校の未然防止シートを活用し、不登校の未然防止を図った。</p> <p>【アセス(学校適応感尺度)】 ・学級全体の適応感や児童生徒個人の適応感を測るためのソフトであるアセスを、年2回程度全小・中学校で実施し、不登校の未然防止を図った。</p> <p>【適応指導教室】 ・不登校などの理由により、在籍する学校を長期間にわたり欠席している児童生徒に対して、基礎学力を補充し、社会性を身につけさせ、登校しようとする意欲を喚起した。平成28年度は、14人が通級し、部分復帰も含め9名が学校復帰した。</p> <p>【教育相談員】 ・不登校等の児童生徒に係る心の問題を解消するため、全中学校に配置した。相談室は、不登校傾向の児童生徒の居場所になることもあり、保護者の相談窓口としても機能した。</p> <p>【スクールカウンセラー】 ・不登校等の児童生徒が抱える問題の解決や軽減のために、心の専門家として教職員へのコンサルテーションや、児童生徒、保護者へのカウンセリング等の活動を行った。</p> <p>【スクールソーシャルワーカー】 ・教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的な知識や技術を用いて、不登校など児童生徒が置かれた様々な環境への働きかけや、関係機関等とのネットワークを活用し、問題を抱える児童生徒に支援を行った。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	不登校児童生徒数	48人	不登校児童生徒数は、一昨年度51人、前年度51人とある程度の人数で落ち着いている。増加傾向に向かわないよう支援が必要である。	
	小学校不登校児童の割合	0.04%	不登校児童の割合は、前年度とほぼ同じである。	
	中学校不登校生徒の割合	1.20%	平成27年度の割合(1.25%)と比較すると、少したが減少した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	深谷市の総合的な不登校対策の取組により、不登校児童生徒数は10年間で減少傾向にある。今後も、不登校ゼロを目指して、取り組んでいきたい。		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				



基本目標Ⅱ たくましく生きるための心と体の育成

Ⅱ-3

<b>施策名</b>		生徒指導の充実		<b>点検評価表作成課</b>		学校教育課		
<b>施策の方向性</b>		○生徒指導体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進する。 ○関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行う。						
<b>施策に関連する主な取組</b>		○生徒指導体制の充実						
		○非行・問題行動の防止						
<b>指標名</b>		児童生徒の暴力行為の発生件数						
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	小・中学校における児童生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数	30件	16件	19件	8件	7件	11件	
		現状値 (平成23年度) 30件		→		目標値 (平成29年度) 25件		

<b>平成28年度重点施策</b>	○生徒指導に係る学校訪問の充実 ○スクールライフサポーターの配置	
<b>平成28年度実績</b>	<p>○生徒指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深谷市生徒指導推進協議会を年5回開催し、学校と警察との連携及び小学校と中学校の連携を図った。</li> <li>・生徒指導に係る学校訪問を実施し、校内生徒指導体制の充実に向けた指導・助言を行った。</li> <li>・ICT支援員が週1日、ネットパトロールを実施した。</li> <li>・県と連携し、「小1問題対応非常勤講師」を小学校6校に配置した。</li> </ul> <p>○非行・問題行動の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県警察に要請し、警察OBの方をスクールサポーター(非常勤・週2日・6時間)として市内中学校に配置し、問題行動の未然防止を図った。</li> <li>・市費スクールライフサポーター(SLS)を小・中学校11校に配置(配置要請)し、積極的な児童生徒指導や問題行動の未然防止を図った。</li> <li>・全小・中学校で非行防止教室を実施した。</li> </ul>	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	非行問題行動は減少傾向にあるが、個々に問題を抱えている児童生徒や複雑な家庭は多いので、特別支援教育の視点での対応と学校だけでなく関係諸機関との連携が一層必要である。	
<b>評価コメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進し、関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行うことができた。</li> <li>・成果指標である、小・中学校における児童生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数は4件増加したが、目標値を下回っており、全体的には減少傾向にある。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>	

<b>意見・提言</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標である児童生徒の暴力行為の発生件数は、平成27年度と比較すると増加したが、平成23年度からは減少してきているので、成果は上がっている。</li> <li>・警察OBのスクールサポーターの導入により、学校のみでは難しい問題行動の未然防止効果が出ている。今後も継続して取り組んでほしい。</li> <li>・地域に根ざした情報を得るために、関係機関との連携を密に取ってほしい。</li> </ul>
--------------	---

# 重点施策評価表

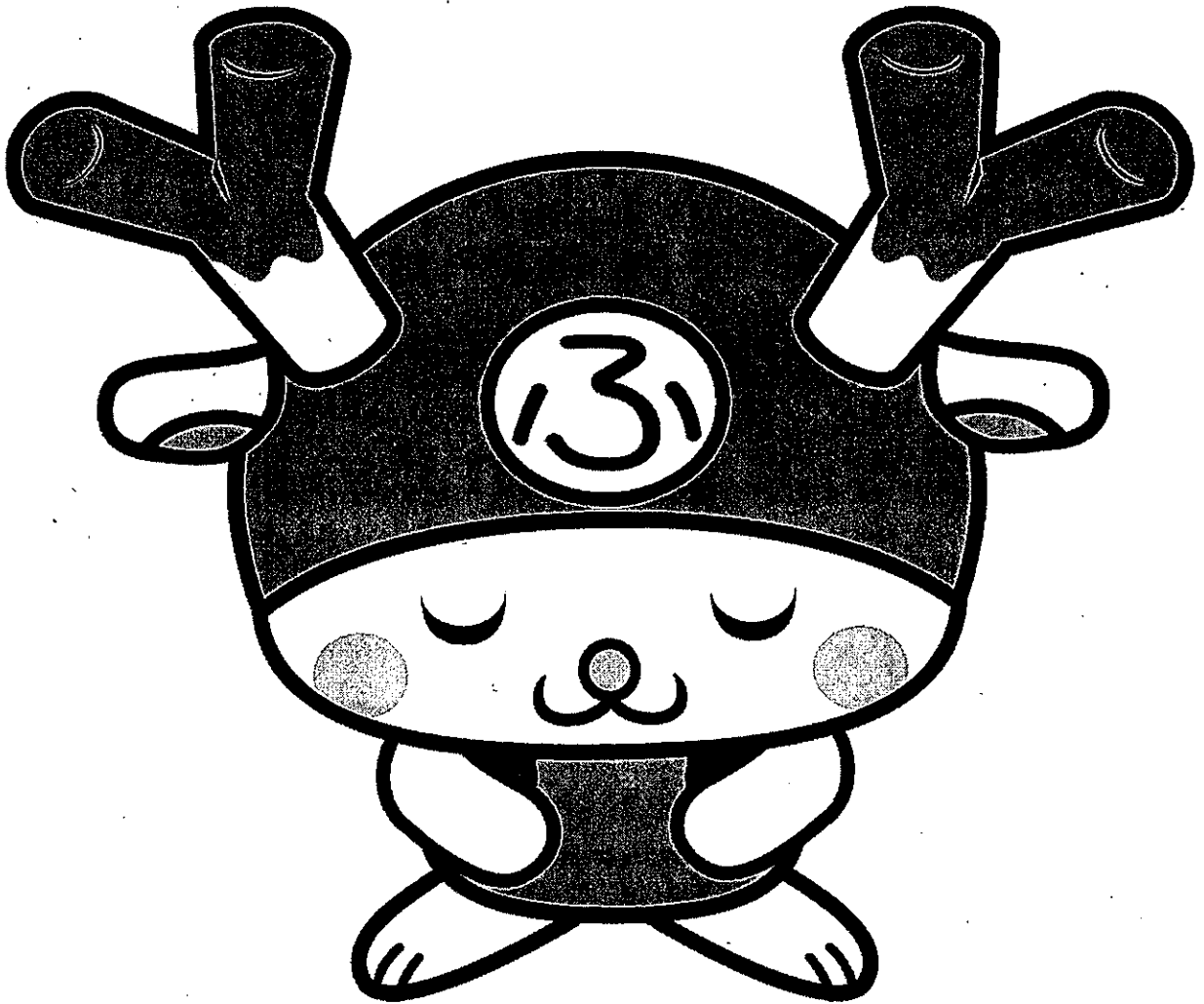
<b>重点施策名</b>	生徒指導に係る学校訪問の充実		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	いじめ・不登校問題をはじめ、児童生徒による非行・問題行動へ対応するため、「生徒指導に係る学校訪問」を実施し、全小・中学校における児童生徒指導の実態を把握し、課題解決に向けた協議等を通し、各学校における指導のより一層の充実を支援しようとするものである。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度は、前期(6月から7月)に、小学校7校、中学校10校、計17校を訪問した。後期(10月から12月)は、小学校11校、中学校5校、計16校を訪問した。</li> <li>北部教育事務所指導主事や北部教育事務所いじめ・非行防止支援員等4名が児童生徒指導の現状や家庭・地域、関係諸機関との連携等について、各学校を訪問し、協議や授業参観等を行った。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
<b>担当課評価</b>	小・中学校における児童生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数	11件	平成20年度には68件あった暴力行為(対教師暴力・児童生徒間暴力・対人暴力・器物破損)の総数が、年々減少している。	
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	小・中学校における暴力行為の発生件数は、減少傾向にある。非行問題行動も減少しており、生徒指導に係る学校訪問の成果が表れている。今後も引き続き実施し、指導の充実に努めたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	関係機関との連携		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	生徒指導推進協議会や寄居警察署管内学校警察連絡協議会を開催し、警察との情報共有、行動連携に努める。 小・中学校の連携や市内私立・県立高等学校との連携を密にして、情報収集や行動連携を図る。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間5回の協議会を実施</li> <li>・内容…深谷警察生活安全課課長講演、夏季休業中の生徒指導、小・中・高・特支の連携・協力</li> </ul> </li> <li>○寄居警察署管内学校警察連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間5回の協議会を実施</li> <li>・内容…寄居警察署生活安全課係長講演、夏季休業中の情報交換、各校の現状と地域の情報交換</li> </ul> </li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
<b>担当課評価</b>	連携会議開催回数	10回	警察等との連携のための協議会を10回開催し、情報共有や共通実践を行い、連携を強化することができた。	
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	学校と警察とが連携し、情報を共有することで、非行問題の未然防止や早期対応等に努めることができた。また、市内の小・中・高の学校が情報共有することで、指導の共通実践ができ、足並みを揃えた指導につながっている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	スクールライフサポーターの配置		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】スクールライフサポーターの配置により、積極的な生徒指導を推進し、非行・問題行動の未然防止を図る。			
平成28年度 の実績	<p>○スクールライフサポーターの配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動の発生を未然に防止し、児童生徒指導の充実に資するため、スクールライフサポーターを小・中学校11校に配置した。</li> <li>・配置については、川本南、八基の小学校2校、幡羅、深谷、藤沢、南、豊里、上柴、岡部、川本、花園の中学校9校であった。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	スクールライフサポーターの配置校	11校	いじめや不登校など生徒指導上の課題に対応するため、スクールライフサポーターを小・中学校11校に配置し、問題行動の未然防止を図ることができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	スクールライフサポーターを配置することにより、個に応じた指導支援を行うことができ、生徒は集中して授業に取り組むことができた。また、校内パトロールを実施することで、早期に情報をキャッチして問題行動の未然防止を図ることができ、スクールライフサポーターの配置効果がでている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				





基本目標Ⅱ たくましく生きるための心と体の育成

Ⅱ-4

<b>施策名</b>		人権を尊重した教育の推進						点検評価表 作成課	学校教育課
<b>施策の方向性</b>		○人権教育を推進するための体制を充実するとともに、人権感覚の育成を図るための指導内容・指導方法を改善します。 ○関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応に努めます。 ○男女共同参画の視点に立った教育を各学校の教育活動を通して推進します。							
<b>施策に関連する主な取組</b>		○人権教育推進体制の充実 ○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善 ○児童虐待防止教育の推進 ○男女共同参画の視点に立った教育の充実							
<b>指標名</b>		人権感覚育成プログラムを実践した学級の割合							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	小・中学校の全学級で、 人権感覚育成プログラムを活用した授業実践 を行った学級の割合	小学校	76%	85%	83%	89%	90%	100%	
		中学校	80%	86%	86%	87%	88%	100%	
		現状値 (平成23年度)	小学校 76% 中学校 80%			→	目標値 (平成28年度)	小学校 90% 中学校 90%	

<b>平成28年度 重点施策</b>	○情報モラル教育の推進(再掲) ○人権感覚育成プログラムの活用の推進 ○児童虐待防止教育の研修会の充実	
<b>平成28年度 実績</b>	○人権教育推進体制の充実 ・新転任人権教育研修会を年2回実施した。 ・ブロック別人権教育研修会(市内10ブロック)と人権教育主任研修会を実施した。 ○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善 ・深谷市新任・転入教職員研修やネットラブルにおける情報モラルに係る指導、また、人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を実施した。 ○児童虐待防止教育の推進 ・児童虐待対応研修会や子どもの虐待防止講演会に参加した。 ・児童虐待防止に関する指導を実施した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	児童虐待防止教育の推進を図るため、県や市の関係部局とのより一層の連携を図る必要がある。	
<b>評価コメント</b>	・人権意識の高揚を図る研修会等を計画的に実施することにより、教職員が自らの人権意識を見つめ直し、確かな人権感覚を身に付け、人権教育に関わる指導を行うことができた。今後も引き続き、研修会等を計画的、継続的に実施することで、教職員の資質向上を図る必要がある。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・成果指標である人権感覚育成プログラムを実践した学級の割合は、小・中学校ともに100%を達成しており、素晴らしい成果が出ている。 ・児童虐待を防止するために、児童の状況の把握や、児童相談所などの関係機関と連携を取ってほしい。
--------------	---

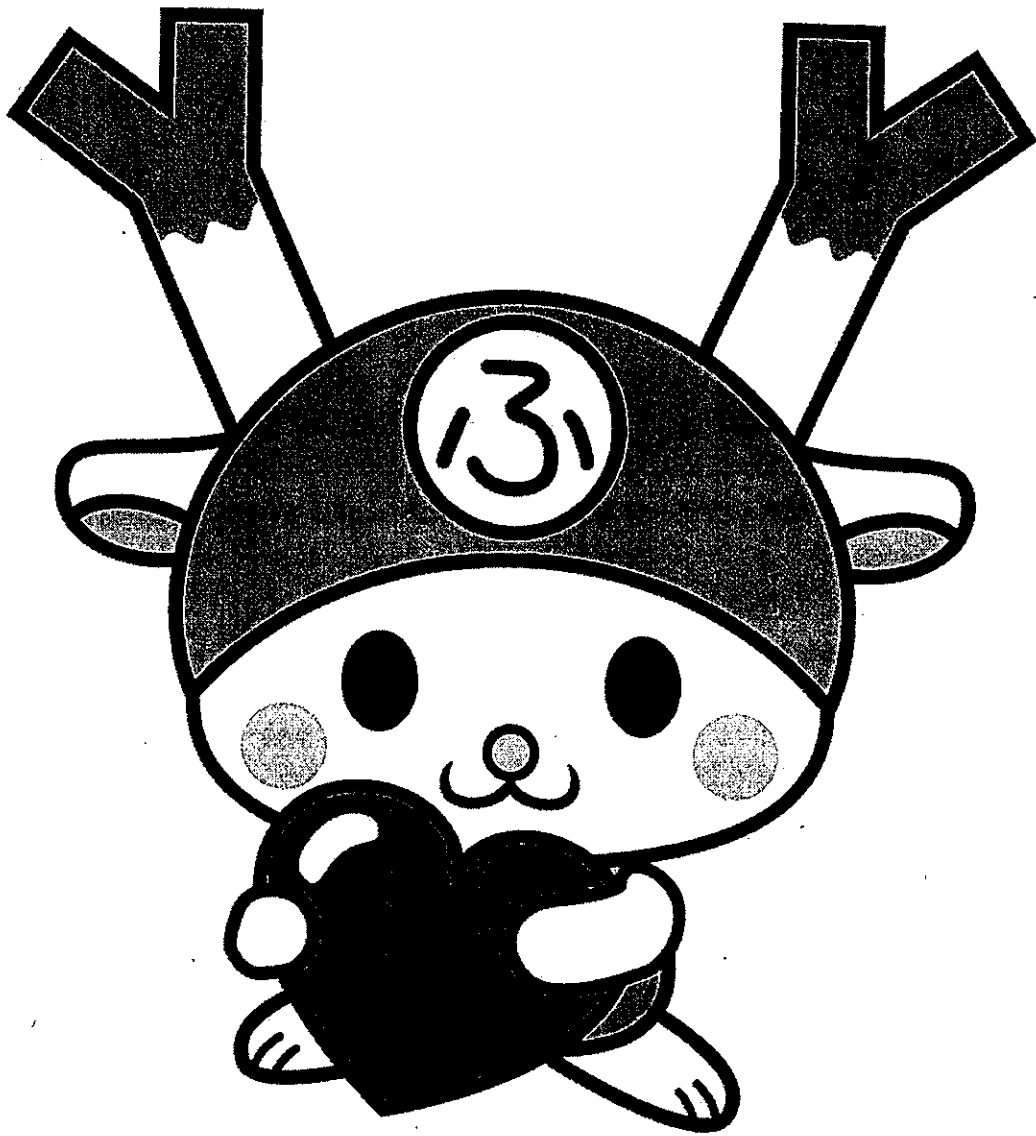
## 重点施策評価表

重点施策名	情報モラル教育の推進(再掲)	担当課	学校教育課
概要	児童生徒に情報モラルについての正しい判断力を身につけさせるための、情報モラル教育を充実する。		
平成28年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度新たに深谷市の教職員となった新任教員及び転入教職員等に「情報モラルについて」と題し、児童生徒が正しい判断力を身につけることができるよう人権教育研修を行った。</li> <li>携帯電話の所持率やトラブルの増加傾向をうけて、全小・中学校の全児童生徒及び保護者を対象として、非行防止教室を実施し、ネットトラブルにおける情報モラルに係る指導を行った。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	情報モラル教育の実施状況	100%	予定された教職員に対する研修及び児童生徒への指導を全て行うことができた。
	非行防止教室保護者参加人数	2,265人	平成27年度は2,193人であったことから、毎年、継続的に保護者への啓発がなされているので、成果につながっている。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	教職員の研修、児童生徒への指導、保護者の啓発等、予定通り実施することができた。携帯電話の普及率やネットトラブルの現状から、今後も各事業を継続していくことが必要である。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	人権感覚育成プログラムの活用の推進	担当課	学校教育課
概要	人権感覚育成プログラムを活用した授業を通して、児童生徒の人権感覚の育成を図る。		
平成28年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権感覚育成プログラムを活用した授業を、全小・中学校で実施することができた。</li> <li>人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を、小学校14校、中学校7校で実施することができた。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	人権感覚育成プログラムを活用した授業を実施した学校の割合	100% (29校/29校)	人権感覚育成プログラムを活用した授業を、全小・中学校で実施することができた。
	人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を実施した学校の割合	72.4% (21校/29校)	教職員に対して、人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を、21校で実施することができた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	教職員を対象として、人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を計画的に実施し、人権感覚の育成を図ることにより、児童生徒に人権感覚育成プログラムを活用した授業の充実を図っていくことが必要である。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

# 重点施策評価表

重点施策名	児童虐待防止教育の充実	担当課	学校教育課
概要	児童虐待防止研修会等を実施し、児童虐待に対する教職員の意識と指導力の向上を図る。		
平成28年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小・中学校で、児童虐待に対応する要保護児童対策地域協議会を設置した。</li> <li>・各校1名、児童虐待対応担当者(児童虐待キーパーソン)を設置した。</li> <li>・児童虐待対応研修会への参加や、児童虐待対応に関する職員研修を実施した。</li> <li>・県教育委員会作成の「児童虐待早期発見シート」を活用した。</li> <li>・児童虐待防止啓発視聴覚資料DVD「クリームパン」の視聴を行った。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	児童虐待対応研修会へ参加した学校の割合	100% (29校/29校)	全小・中学校が、県・市が主催する児童虐待対応研修会に参加し、児童虐待に対する教職員の意識を啓発することができた。
	児童虐待対応に関する職員研修を実施した学校の割合	96.6% (28校/29校)	児童虐待対応に関する職員研修を各校で実施し、教職員の指導力の向上を図ることができた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	児童虐待対応研修会への参加や職員研修の実施を予定どおり行い、児童虐待防止教育を推進することができた。今後も各事業を継続していくことが必要である。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			



<b>施策名</b>		健康の保持増進				<b>点検評価表 作成課</b>		学校教育課	
<b>施策の方向性</b>		○児童生徒の健やかな心と体の育成のため、学校・家庭・地域の医療機関等の関係機関が連携して、組織的に学校保健活動を推進する。 ○朝食の欠食を解消することを重点に、学校・家庭・地域が連携して食育を推進する。 ○性に関する指導、薬物乱用防止教育などの現代的な課題に対応する教育を推進する。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○学校保健の充実							
		○食育の推進							
		○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進							
<b>指標名</b>		毎日朝食を食べる児童生徒の割合							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	全児童生徒を対象とする 「体力等に関する調査」から、「朝食を毎日必ず食べる」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生	94.0%	94.6%	95.6%	98.2%	97.1%	93.7%	
		中学校2年生	89.0%	89.6%	91.8%	94.4%	93.2%	91.1%	
			現状値 (平成24年度)	小学校5年生 94% 中学校2年生 89%		➔		目標値 (平成25年度)	小学校5年生 97% 中学校2年生 92%
<b>平成28年度 重点施策</b>		○食育の推進と朝食欠食の解消 ○安心安全な学校給食の提供							
<b>平成28年度 実績</b>		○学校保健の充実 ・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を作成した。 ・保護者参加の学校保健委員会を実施した。 ○食育の推進 ・朝食欠食率、食品ロス、各学校の食育の取組等を紹介した「こころざし」を配布した。 ・地場産物を活用した献立を作成した。 ・岡部中学校の自校式給食場建設に向けた設計を行った。 ○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進 ・児童生徒の発達段階を踏まえた、性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)の作成及び性に 関する授業を実施した。 ・非行防止指導班「あおぞら」や熊谷保健所等外部指導者を活用しての薬物乱用防止教室を実施 した。							
<b>総合評価</b>		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない					
<b>課題</b>		朝食欠食率を減らす取組をより充実させ、家庭に協力してもらうための方策を考える必要がある。							
<b>評価コメント</b>		・自校式給食場建設に向けた設計を、計画どおり進めることができた。 ・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を全小・中学校で作成するとともに、学校保健委員会を全小・中学校で年1回以上実施することができた。 ・体力向上推進委員会で、朝食や睡眠などの生活習慣調査を実施し、児童生徒の生活習慣の現状等を把握することができた。 ・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)を作成し、性に関する授業を計画的に実施することができた。 ・全小・中学校で薬物乱用防止教室を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
<b>意見・提言</b>		・成果指標である毎日朝食を食べる児童生徒の割合は、年々減少傾向にある。家庭と協力して、引き続き朝食欠食の解消に取り組んでほしい。 ・学校保健委員会で、PTAとの連携を強化してほしい。							

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	食育の推進と朝食欠食の解消		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	<p>【青洲学びの郷づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連携して朝食欠食の解消に取り組み、子どもたちに望ましい食習慣を身に付けさせる。</li> <li>・栄養教諭等を中心に、学校における食育を推進する。</li> </ul>			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上推進委員会に栄養教諭(2名)も委員として参加し、朝食摂取率の向上を目標に取り組んだ。</li> <li>・教育委員会だより「こころざし」で、朝食欠食率や食品ロス、食育の取組について紹介した。</li> <li>・各小・中学校において、積極的に地場産物の購入に努め、地場産物を活用した献立を作成した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学校 93.7% 中学校 91.1%	朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、平成27年度と比較すると、小学校は3.4ポイント、中学校は2.1ポイント低下した。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	朝食欠食の解消に向けた取組については、「こころざし」を各家庭に配布し、家庭に協力を求めることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	安心安全な学校給食の提供		<b>担当課</b>	教育総務課
<b>概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産物の活用を推進し、地域の特色を生かした給食の充実を図る。</li> <li>・郷土料理を献立に取り入れ、子どもたちの郷土料理についての理解を深める。</li> </ul>			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小・中学校において、積極的に地場産物の購入に努め、地場産物を活用した献立を作成した。</li> <li>・学校給食月間等に郷土料理を提供し、給食だよりや校内放送等で啓発することにより理解を深めた。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	地場産物を活用した献立を作成した学校の割合	100% (29校/29校)	全小・中学校で地場産物を活用した献立を作成することができた。	
	学校給食における地場産物の使用割合	31.1%	県の「食育推進基本計画」で定められた目標30%を達成した。	
	郷土料理を取り入れた献立を作成した学校の割合	100% (29校/29校)	全小・中学校で郷土料理を取り入れた献立を作成することができた。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	学校に地場産物を積極的に活用するように呼びかけた結果、地場産物を使用した割合は31.1%となった。また、郷土料理も献立に取り入れて啓発したことにより、児童生徒への理解を深めることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	中学校給食場建設事業		担当課	教育施設課
概要	現在の学校給食については、学校単位の給食場で調理し児童生徒に給食を配食する自校方式と、1箇所の施設で一括調理し各学校に給食を配食する給食センター方式(岡部地区、花園地区)の2方式で運営していることから、全てを自校方式とするための給食場建設を行う。			
平成28年度 の実績	<p>岡部中学校給食場建設工事に伴う設計業務を実施した。</p> <p>(全体計画) 計画学校数 7校</p> <p>【整備済】 4校 ・岡部地区 4校 (岡部小・榛沢小・本郷小・岡部西小)</p> <p>【未整備】 3校 ・岡部地区 1校(岡部中) ・花園地区 2校(花園小、花園中) ※花園小は、既存の給食センターを活用する。</p>			
担当課 評価	指標名	実績値	指標別コメント	
	設計が完了した学校数	1校	給食場建設工事に向けた設計業務が完了した。	
	評価区分		評価コメント	
	1		岡部中学校の給食場建設に向けた設計業務が実施できた。設計業務が完了している花園中学校と併せて、給食場建設工事に向けた事務手続を進めたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				





基本目標Ⅱ たくましく生きるための心と体の育成

Ⅱ-6

<b>施策名</b>		体力の向上と学校体育活動の推進						点検評価表 作成課	学校教育課
<b>施策の方向性</b>		○「教育に関する3つの達成目標」(体力)を推進します。 ○体力向上推進委員会を中心に、家庭や地域社会と連携しながら体力向上推進事業に取り組みます。 ○専門的な指導力を有する地域の外部人材を積極的に活用するなど運動部活動の充実に取り組みます。							
<b>施策に関連する主な取組</b>		○学校体育の充実							
		○「教育に関する3つの達成目標」の推進							
		○運動部活動の充実							
<b>指標名</b>		新体力テストの結果							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	新体力テスト結果の5段階絶対評価で上位2ランク(A, B)の児童生徒の割合	小学校	52.4%	51.8%	53.6%	56.7%	54.1%	55.5%	
		中学校	47.1%	57.8%	56.0%	57.0%	56.7%	56.9%	
		現状値 (平成23年度)	小学校 52.4% 中学校 47.1%			➔	目標値 (平成29年度)	小学校 57% 中学校 52%	

<b>平成28年度重点施策</b>	○武道指導の充実 ○体力向上の取組の推進 ○外部指導者の活用
-------------------	--------------------------------------

<b>平成28年度実績</b>	○学校体育の充実 ・体力向上推進委員会を年2回実施した。 ・小学校水泳実技指導者講習会と小学校体育実技指導者講習会を実施した。 ・外部指導者を活用する柔道授業を6中学校で実施した。  ○「教育に関する3つの達成目標」の推進 ・新体力テストを実施した。 ・走力向上「50m走にチャレンジ」を実施した。  ○運動部活動の充実 ・外部指導者を活用し、全10中学校に40名派遣した。
-----------------	---

<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

<b>課題</b>	柔道授業の外部指導者の確保と走力を向上させるためのプログラムの作成・活用が課題である。
-----------	---

<b>評価コメント</b>	・新体力テストの結果における上位2ランクの児童生徒の割合は、前年度と比較すると、小学校では1.4ポイント、中学校では0.2ポイント向上した。 ・全中学校で外部指導者を活用した部活動を実施した。外部指導者を活用することにより、安全かつ専門的な指導及び個に応じたきめ細かな指導を実施することができた。その結果、大きな怪我をした生徒は1人もいなかった。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	---

<b>意見・提言</b>	・成果指標である新体力テスト結果の5段階絶対評価の上位2ランクの生徒の割合は上昇しており、また、50m走の記録も向上し、体力の向上が見受けられる。 ・柔道など激しいスポーツで事故や怪我を防げたことは、安全に留意した結果であり、評価できる。 ・今は、家や学校などで走り回って遊ぶ子が少なくなっている。体力向上のためには、体を動かす習慣を身に付けられるようにしてほしい。
--------------	---

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	武道指導の充実		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】教員の研修を充実し、安全な武道の学習を推進する。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>柔道の授業がある6中学校に外部指導者を配置した。(明戸中、幡羅中、深谷中、南中、岡部中、川本中)</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	柔道の授業がある学校への外部指導者の配置状況	100% (6校/6校)	柔道の授業がある6校全てに外部指導者を配置することができ、安全かつ効果的な授業が展開できた。	
	柔道の授業における大きな怪我をした生徒の数	0人	柔道の授業において、大きな怪我をした生徒は1人もいなかった。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	柔道支援では、外部指導者が保健体育科の教員の補助に入ることで、安全かつ充実した授業展開を図ることができた。また、教職員の指導力を向上させるとともに、けが人を1人も出すことなく、個に応じた効果的な指導が実施できた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	体力向上の取組の推進		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	「50m走にチャレンジ」を推進するとともに、体育授業を充実し、児童生徒の体力向上を図る。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力向上に係る重点種目である50m走において、自己の記録を高めることを目標に、全小・中学校で「50m走にチャレンジ」を実施した。</li> <li>小学校で市教育委員会主催の「体育実技指導者講習会」を3回開催した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	新体カテストにおける50m走の記録が県平均を上回った割合	38.9%	県平均値を上回った学年の割合が、昨年度と比較すると22.3ポイント向上した。	
	実技指導者講習会の実施回数	3回	小学校は体育実技指導者講習会を開催し、教職員の指導力を向上させることができた。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	小学校は、実技指導者講習会を開催し、教職員の指導力を向上させるとともに、体育の授業を充実させることができた。新体カテストにおいては、課題であった「50m走」が向上傾向にある。小・中学校ともに上位2ランクの児童・生徒の割合は昨年度を上回り、中学校においては目標値の52%を上回ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	外部指導者の活用		担当課	学校教育課
概要	地域で専門的スキルを有する人材を外部指導者として派遣し、運動部活動における技術的な指導の充実を図る。			
平成28年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全中学校に外部指導者を合計で40人配置した。</li> <li>・配置内訳は、剣道部7人、サッカー部6人、柔道部4人、ソフトテニス部5人、ソフトボール部4人、卓球部3人、バスケットボール部3人、陸上1人、バドミントン部2人、バレーボール部1人、野球部2人、ラグビー部2人であった。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	外部指導者の配置した中学校の割合	100% (10校/10校)	外部指導者を全中学校に配置できた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	全中学校に外部指導者を配置することができた。また、外部指導者を活用することで、指導者の資質の向上を図るとともに、地域の指導者を活用することで、運動部活動と地域社会との連携を促進することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



<b>施策名</b>	信頼される教職員の育成		<b>点検評価表 作成課</b>	学校教育課			
<b>施策の方向性</b>	○教職員の経験年数や専門性に応じた適切な研修を充実します。 ○人事評価制度を充実し、教職員の人事管理や資質・能力の向上に取り組みます。 ○教員が子どもと向き合う環境づくりのための取組を推進します。 ○教職員の健康管理に配慮し、悩みを抱える教職員に対する取組を推進します。						
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○教育研究所の機能の充実			○指導力が不足している教員への対応			
	○経験豊かな人材の活用			○子どもと向き合う環境づくりの推進			
	○教職員研修の充実			○悩みを抱える教職員に対する取組の推進			
	○人事評価制度の充実						
<b>指標名</b>	教職の経験年数に応じた研修の実施状況						
<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
若手や中堅・ベテランの教職員、管理職等の経験年数に応じて必要とされる資質・能力を高める研修をそれぞれ年2回実施する	若手教職員研修の回数	0	0	2	2	2	2
	中堅教職員研修の回数	0	0	0	2	2	2
	管理職研修の回数	2	2	3	3	2	2
<b>現状値 (平成23年度)</b>	管理職対象の研修会2回の実施		➔		<b>目標値 (平成24年度)</b>		
					①若手教職員対象の研修を実施(2回) ②中堅・ベテラン教職員対象の研修を実施(2回) ③管理職対象の研修を実施(2回)		

<b>平成28年度 重点施策</b>	○学校運営協議会の設置 ○教職員の指導力の向上 ○経験年数に応じた教員研修 ○評価者研修会の充実		○ICT活用による校務支援
<b>平成28年度 実績</b>	○教育研究所の機能の充実 ・教育研究所の機能の充実を図るため、研修の開催、学校・児童生徒・保護者及び地域の支援を行った。 ○経験豊かな人材の活用 ・経験豊かな人材を活用し、児童生徒の問題行動や保護者・地域との対応等、学校が抱える様々な課題の解決に向けた支援体制として、学校総合支援員10名を配置した。 ○教職員研修の充実 ・職員研修の充実を図るため、研究所協力員研修会、各教科等担当指導主事による研修会等を実施した。また、若手教職員対象の研修会を2回、中堅・ベテランの教職員対象の学校運営研修会を2回、市内園長・校長会議において、管理職対象の研修会を2回実施した。 ○人事評価制度の充実 ・人事評価制度の充実を図るため、評価者研修会を実施した。 ○指導力が不足している教員への対応 ・指導力が不足している教員への対応として、各指導主事が学校を訪問し繰り返し指導を実施した。 ○子どもと向き合う環境づくりの推進 ・子どもと向き合う環境づくりを推進するため、昨年に引き続き校務支援システム(指導要録の電子化等)を活用した。 ○悩みを抱える教職員に対する取組 ・悩みを抱える教職員に対する取組として、担当委嘱医による教職員メンタルヘルス相談を年12回実施した。		
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない	
<b>課題</b>	・若手、中堅・ベテラン教職員の経験年数に応じて必要とされる資質・能力を高める研修の内容の充実を図る必要がある。		
<b>評価コメント</b>	・管理職を対象とした研修会を年間2回実施するとともに、若手教職員研修を2回実施した。中堅教職員研修についても2回実施した。 ・教職員の指導力の向上については、研究所協力員による、「深谷市授業スタンダード」「ベーシック」を踏まえた指導案等の実践事例を作成した。また各教科等の担当指導主事による研修会等を実施した。 ・校務支援システムを活用することにより、子どもと向き合う時間を確保することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。		

<b>意見・提言</b>	・こころざし深谷教師塾に参加する教職員が増加している。様々な研修の機会を用意して、さらに教職員の資質・能力の向上を目指してもらいたい。 ・教職員の育成のために、成果を上げている他自治体を視察することも検討してほしい。
--------------	---

## 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	学校運営協議会の設置		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	深谷市コミュニティ・スクールを小・中学校に設置し、学校運営協議会の活動を充実させ、地域とともにある学校づくりを推進するとともに、地域の活性化を図り、地域総がかりで次代を担う子供たちの育成をしていく。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小・中学校に学校運営協議会を設置し、委員を任命した。</li> <li>・深谷市コミュニティ・スクール推進実行委員会、同推進委員会を年2回開催した。</li> <li>・学校運営協議会の充実を図るため、深谷市コミュニティ・スクール担当者会議、学校運営協議会会長連絡協議会、深谷市コミュニティ・スクール研修会を開催した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	各小・中学校の学校運営協議会設置割合	100%	平成28年4月から平成29年1月にかけて、準備が整った小・中学校から順次、学校運営協議会を設置した。	
各小・中学校の学校運営協議会の開催回数平均	2.5回	学校運営協議会を設置した時期により、開催回数にばらつきが出た。		
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	3	時期に開きはあるが、全小・中学校に学校運営協議会が設置することができた。学校運営協議会の充実を図り、学校・家庭・地域が協働する形を作っていくために、さらに関係者の研修会や協議会を行っていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	教職員の指導力の向上		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	「こころざし深谷教師塾」を通して、優れた教育指導技術を学ぶとともに、「深谷市授業スタンダード」「授業ベーシック」をもとに指導力の向上に努め、日々の授業の充実を図る。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「こころざし深谷教師塾」によって、はつらつ先生、長期研修教員、教育研究所指導委員の授業を広く市内教員に公開し、優れた指導技術を学ぶ機会を設けた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施校 25校(学校訪問に合わせて実施)</li> <li>・参加教員数 83名</li> </ul> </li> <li>○「深谷市授業スタンダード」「授業ベーシック」を踏まえた授業実践を各校で取り組んだ。また、深谷市教育研究所協力員による実践事例を作成した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	「こころざし深谷教師塾」に参加した人数	83人	昨年度は52人が参加しており、増加している。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	「こころざし深谷教師塾」に参加した人数は増加しており、優れた授業実践を見る機会として継続していく。また、引き続き、「深谷市授業スタンダード」「授業ベーシック」をもとに教員の授業力向上を図っていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	経験年数に応じた教員研修	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	2年次教員研修会、中核教員研修会等の経験年数に応じた研修会の実施や自主的な研修会の支援を通じ、教職員の資質と力量の向上を図る。		
<b>平成28年度の実績</b>	○市教育委員会が主催し、実施した研修会 ・初任者研修として、初任者研修、施設研修を実施した。 ・2年次研修として、セカンドステップ研修を実施した。 ・中堅・ベテランの教職員を対象とした、学校運営研修会を実施した。 ・管理職を対象とした研修を実施した。 ・臨時教職員、非常勤講師等を対象とした研修を実施した。 ・教科等指導法の研修を実施した。(算数・数学、理科、英語、体育、道徳) ・新任教職員及び転入教職員を対象とした人権教育に係る研修を実施した。		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	若手教職員研修の回数	2回	セカンドステップ研修として2年次の教職員を対象とした研修を2回行った。
	中堅教職員研修の回数	2回	学校運営研修会として、各学校より中堅・ベテランの教職員対象の研修会を2回実施した。
管理職研修の回数	2回	校長を対象とした研修会を2回実施した。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	たくさんの新任教職員が入ってくる中、指導力の向上とベテラン教職員の指導技術継承のため、若手教職員研修を実施することができた。市教育委員会の指導主事も指導者として参加しながら、各学校でも校内研修等で指導力向上のための研修を実施した。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	新たな人事評価制度への対応	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	人事評価結果が給与等へ反映されることを踏まえ、管理職が人材育成の視点に立ち評価が行えるよう、研修の充実を図る。		
<b>平成28年度の実績</b>	○評価者研修 ・対象 小中学校の校長及び教頭 ・内容 校長対象3回 教頭対象4回 教職員評価システム変更点、人事評価制度運用上の留意点及び評価者の評価制度の向上を図った。		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	管理職への研修会の回数	校長3回 教頭4回	人事評価制度の改正に伴い、講義形式と事例を取り上げての演習形式で、研修を実施した。
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
<b>担当課評価</b>	3	管理職である校長と教頭への評価者としての研修会をそれぞれ3回、4回実施することができた。平成28年度からは、評価結果が給与等へ反映されることから、改正点の理解と評価者としての、評価能力の向上を目指した研修の回数を確保し、充実を図る。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			



# 重点施策評価表

重点施策名	ICT活用による校務支援		担当課	学校教育課
概要	<p>【青淵学びの郷づくり】各小・中学校の校務用コンピュータに校務支援システムを整備することにより、名簿や出欠席、成績などの一元化された情報を、通知表や指導要録、調査書などに反映し、活用できるようにし、教職員の事務的業務の負担を軽減し、子どもと向き合う時間を確保できるようにする。</p>			
平成28年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムをはじめとするICT機器の活用により、校務の効率化やICTの指導への利用を進めていくことができた。(校務支援システムによって軽減された時間:65.4時間(H26年調査))</li> <li>昨年度に引き続き、全小・中学校において校務支援システムを使った成績処理と指導要録、出席簿抄本、調査書、通知表等の作成を行い、教師が子どもと向き合う時間を確保した。</li> <li>校務にICT機器を活用する能力については、93.1%の教員が活用することができる。</li> </ul>			
担当課評価	指標名	実績値	指標別コメント	
	校務にICT機器を活用することができる教員の割合	93.1%	H27年の埼玉県の平均80.9%を12%以上超える結果であった。	
	評価区分	評価コメント		
1	<p>平成26年度においてすべての整備を終え、システム導入前と比較して時間軽減や満足度を調査することができなくなった。そのため、校務にICT機器を活用することができる教員の割合を指標とすることとした。この指標において、県の平均を12%以上超える結果となった。</p>			
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				

<b>施策名</b>		子どもたちの安心・安全の確保		<b>点検評価表 作成課</b>		学校教育課			
<b>施策の方向性</b>		○東日本大震災の教訓を踏まえ、子どもたちに危機管理能力の基礎を身に付けさせるため、学校における実践的な避難訓練などを計画的に実施します。 ○学校における危機管理体制の整備・充実と教職員の危機管理能力の向上に努めます。 ○児童生徒の防犯や交通安全について、地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進します。 ○災害に強い情報基盤として、「緊急連絡サイト」を設置し、全ての小・中学校で活用していきます。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○安全教育の推進							
		○学校の危機管理体制の整備・充実							
		○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進							
<b>指標名</b>		緊急地震速報を活用した避難訓練の実施率							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を年1回以上実施する	小学校	63.1%	100%	100%	100%	100%	100%	
		中学校	80.0%	100%	100%	100%	100%	100%	
		<b>現状値 (平成23年度)</b>	小学校 63.1% 中学校 80%		<b>➡</b>		<b>目標値 (平成24年度)</b>	小学校 100% 中学校 100%	

<b>平成28年度 重点施策</b>	○避難訓練の実施 ○地震対応マニュアルの活用 ○防犯・安全体制の充実	
<b>平成28年度 実績</b>	○安全教育の推進 ・全小・中学校で交通安全教室を実施した。  ○学校の危機管理体制の整備・充実 ・全小・中学校が緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を実施した。  ○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進 ・各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課からなる深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。 ・災害に強い情報基盤である「緊急連絡サイト」を、全小・中学校で活用した。 ・学校が主体となって、保護者や地域の協力を得ながら、安全点検を実施した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる    A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない        C: まったく進んでいない
<b>課題</b>	・通学路安全点検の結果を受けて、危険箇所等に係る児童・生徒への指導と、地域や保護者への情報提供を適宜行っていく必要がある。	
<b>評価コメント</b>	・埼玉県教育委員会の方針でもある「緊急地震速報を活用した避難訓練」を全小・中学校で1回以上実施できた。 ・災害に強い情報基盤である「緊急連絡サイト」を、全小・中学校で活用することができた。 ・深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・成果指標である避難訓練では、多方面にわたる危機対応の訓練を行っており評価できる。 ・子供達が安心して過ごせるような環境の整備を進めてほしい。
--------------	--

# 重点施策評価表


<b>重点施策名</b>	避難訓練の実施		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	緊急地震速報を活用した避難訓練を全小・中学校で実施し、緊急地震速報を聞いた時の避難の仕方を学び、迅速に避難できるようにする。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急地震速報を活用した避難訓練を、全小学校(19校)、全中学校(10校)で実施した。</li> <li>引き渡し訓練を含めた避難訓練を、全小学校で実施した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	緊急地震速報を活用した避難訓練の実施率	100% (29校/29校)	全小・中学校において緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を年1回以上実施することができた。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	緊急に地震が起きた場合に、児童生徒が安全かつ迅速に避難できるよう、全ての小・中学校において緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を年1回以上実施することができた。また、教職員においても、地震が起きた時の役割や児童生徒の誘導について理解することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	地震対応マニュアルの活用		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」を活用した避難訓練及び保護者への緊急時における引き渡し訓練(小学校)を実施する。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>震度を基準にした「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」の見直しを行った。</li> <li>引き渡し実施基準を明確化し、地震対応マニュアルを各学校から保護者へ周知徹底した。</li> <li>全小・中学校で地震対応マニュアルを活用した避難訓練を実施した。</li> <li>全小学校で地震対応マニュアルを活用し、震度5弱以上の地震を想定した避難訓練後に保護者引き渡し訓練を実施した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	引き渡し方法や下校方法を含む震度等を基本とする地震対応マニュアルの保護者への周知	100% (29校/29校)	全小・中学校で地震対応マニュアルの配付等を行い保護者に周知した。	
地震対応マニュアルを活用した避難訓練を実施した小・中学校の割合	100% (29校/29校)	全小・中学校において地震対応マニュアル活用した避難訓練を1回以上実施することができた。		
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	全小・中学校において「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」を基にし、緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。東日本大震災の教訓を忘れないよう、今後も学校等の意見を受けて、「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」の見直し・修正等を行っていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	防犯・安全体制の充実		担当課	学校教育課
概要	警察や関係諸機関と連携し、学校・家庭・地域が一体となって、通学路の防犯・安全体制の充実を図る。			
平成28年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課からなる深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。</li> <li>学校が主体となって、保護者や地域の協力を得ながら、安全点検を実施した。</li> <li>各小学校1名、スクールガードリーダーを委嘱し、通学路の見守り活動の中心となって活動した。</li> <li>学校応援団、PTA等、多くの目で児童生徒の通学路の安全体制の充実を図った。</li> </ul>			
担当課評価	指標名	実績値	指標別コメント	
	深谷市通学路安全対策連絡会の実施回数	2回	各中学校区毎に共通理解を図ることができた。	
	評価区分	評価コメント		
1	各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課で構成される、深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化することができた。			
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



<b>施策名</b>	学習環境の整備・充実		<b>点検評価表 作成課</b>	教育総務課					
<b>施策の方向性</b>	○計画的な施設整備により、安全で快適な学校環境づくりを進めます。 ○学校図書館の資料の充実や、学校の情報化を推進し、教材・備品の整備を推進します。								
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○学校施設の整備推進								
	○学校図書館の整備・充実								
	○ICT環境の整備								
	○学校教材・備品の計画的な整備								
<b>指標名</b>	学校図書館図書標準を達成した学校の割合								
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	学校図書館に整備すべき蔵書を標準として、文部科学省が定める基準を達成した学校数の割合	小学校	94.7%	100%	100%	94.7%	100%	100%	
		中学校	100%	100%	90%	100%	100%	100%	
		<b>現状値 (平成23年度)</b>	小学校 89.5% 中学校 100%			<b>目標値 (平成29年度)</b>	小学校 100% 中学校 100%		

<b>平成28年度 重点施策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校・中学校施設大規模改修事業</li> <li>○幼稚園施設建設事業</li> <li>○学習センターとしての機能の充実</li> <li>○理科及び算数・数学教育のための設備の整備</li> </ul>	
<b>平成28年度 実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校施設の整備推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・花園中学校管理教室棟の大規模改修工事設計業務を実施した。</li> <li>・川本中学校管理棟及び花園中学校柔剣道場の大規模改修工事(花園中学校は天井等落下防止対策工事含む。)、岡部中学校技術科棟の解体工事を実施した。</li> <li>・常盤・大寄・八基小学校体育館及び明戸・幡羅・深谷・豊里・藤沢・南・上柴・岡部中学校武道場の天井等落下防止対策工事を実施した。</li> <li>・藤沢幼稚園の旧園舎解体及び園庭整備を実施した。</li> </ul> </li> <li>○学校図書館の整備・充実                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の蔵書の充実を図るため、全小・中学校で図書の新規購入、更新を行った。</li> <li>・全小・中学校に市費の図書館補助員を配置した。</li> </ul> </li> <li>○ICT環境の整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校7校、中学校6校で教師指導用タブレットの入替を行った。</li> <li>・小学校4校、中学校2校で児童生徒学習用タブレットの入替を行った。</li> <li>・小学校11校で教室用書画カメラの入替を行った。</li> </ul> </li> <li>○学校教材・備品の計画的な整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助金を活用して、理科、算数及び数学の設備を整備した。</li> <li>・全小・中学校で、破損した児童生徒用の机・椅子を更新した。</li> <li>・小学校2校、中学校4校で、故障した保健室・職員室のエアコンを更新した。</li> <li>・中学校1校で、老朽化した電話設備を更新した。</li> </ul> </li> </ul>	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設、設備、備品の老朽化への対応が求められている。</li> <li>・学校図書館の学習センター、情報センターとしての機能充実のため、計画的に資料を更新する必要がある。</li> </ul>	
<b>評価コメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり小・中学校の大規模改修及び非構造部材の耐震化を進めることができた。</li> <li>・藤沢幼稚園の旧園舎解体及び園庭整備により、稼働している園舎の耐震対策に伴う建設事業を完了することができた。</li> <li>・計画的な図書の購入により、全小・中学校で学校図書館の標準図書冊数を上回ることができた。</li> <li>・授業でタブレットPCを活用できる環境の整備を進めることができた。</li> <li>・国庫補助金を活用したことにより、理科、算数及び数学の設備の整備を進めることができた。</li> <li>・老朽化した多くの学校備品を更新することができた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>	

<b>意見・提言</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標である学校図書館図書基準については、全小・中学校で標準冊数を上回っており素晴らしい。</li> <li>・耐震化・老朽化に対する対策が計画的に進められ、安全な学校環境が整ってきている。今後も継続して、安心・安全を確保してほしい。</li> </ul>
--------------	---

# 重点施策評価表

重点施策名	小学校・中学校施設大規模改修事業	担当課	教育施設課
概要	校舎や体育館を通常の学校施設として、また、災害時の避難場所として安全に使用するため、地震に対する安全性の確保及び老朽化や教育内容の変化に対応できるように、構造部材の耐震化及び施設の改修工事を実施する。		
平成28年度の実績	○大規模改修工事設計の実施 ・花園中学校管理教室棟の大規模改修工事設計業務を実施した。		
	○大規模改修工事の実施 ・川本中学校管理棟及び花園中学校柔剣道場の大規模改修工事(花園中学校は天井等落下防止対策工事含む。)、岡部中学校技術科棟の解体工事を実施した。		
	○非構造部材の耐震化工事の実施 ・常盤・大寄・八基小学校体育館及び明戸・幡羅・深谷・豊里・藤沢・南・上柴・岡部中学校武道場の天井等落下防止対策工事を実施した。		
	指標名	実績値	指標別コメント
大規模改修工事設計業務が完成した学校数(年度計画1校)	1校	年度計画どおり花園中学校管理教室棟の大規模改修工事設計業務を完了した。	
大規模改修工事が完成した学校数(年度計画2校)	2校	年度計画どおり川本中学校本校舎及び花園中学校柔剣道場の大規模改修工事が完了した。	
非構造部材の耐震化工事が完成した学校数(年度計画12校)	12校	年度計画どおり小学校3校、中学校9校の体育館の天井等落下防止対策工事を完了した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	平成28年度予定の大規模改修工事設計業務(1校)、大規模改修工事(2校)は、計画どおりに実施できた。併せて非構造部材の耐震化工事(12校)を実施することができた。 引き続き、設計業務が完了している花園中学校管理教室棟の大規模改修工事に向けた事務手続を進めたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

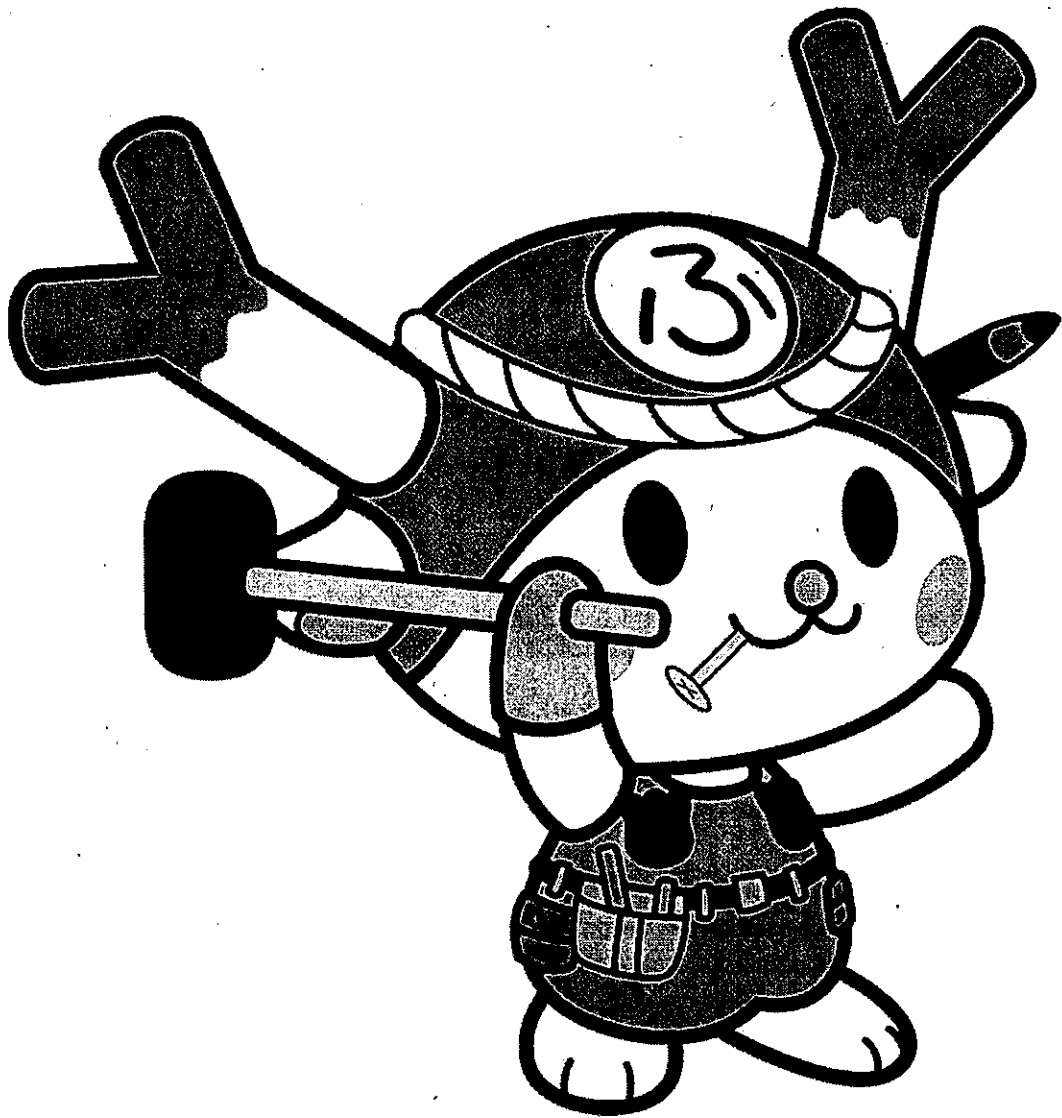
重点施策名	幼稚園施設建設事業	担当課	教育施設課
概要	耐震性の不足及び老朽化に伴い新築した藤沢幼稚園について、旧園舎を解体し、園庭を整備する。		
平成28年度の実績	○藤沢幼稚園の旧園舎解体及び園庭整備を実施した。		
	【藤沢幼稚園】 ・旧園舎 昭和46年建築 鉄骨造平屋建て 延床面積279㎡ ・新園舎 平成27年建築 ※藤沢学童保育室併設 幼稚園敷地内に新築 鉄骨造平屋建て 床面積445㎡(うち幼稚園分343㎡)		
	指標名	実績値	指標別コメント
園庭を整備した園数	1園	年度計画どおり藤沢幼稚園の園庭整備が完了した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	4	藤沢幼稚園の旧園舎を解体し、園庭を整備した。これにより、稼働している園舎の耐震対策に伴う建設工事は完了し、事業達成により終了とする。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	学習センターとしての機能の充実	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	各教科の授業における調べ学習において、図書館補助員が子供たちの学習支援を図るなど、学習センターとしての機能を充実する。		
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全小・中学校に図書館補助員を配置した。</li> <li>全小・中学校で、総合的な学習の時間や国語の授業において、学校図書館を活用した。</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	授業において学校図書館を活用した学校の割合	100% (29校/29校)	全小・中学校で、総合的な学習の時間や国語の授業において、学校図書館を活用できた。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	全小・中学校の授業において、学校図書館を活用できた。継続して活用する中で、活用の仕方を工夫、充実させるとともに、図書館補助員のレファレンスサービスの向上を図っていく。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	理科及び算数・数学教育のための設備の整備	<b>担当課</b>	教育総務課
<b>概要</b>	理科、算数及び数学に関する教育を実施するための設備の整備を行う。なお、理科教育設備整備費等補助金交付要綱に基づく国庫補助金も活用する。		
<b>平成28年度の実績</b>	各学校への配当予算及び国庫補助金により、次のとおり理科、算数及び数学の設備を購入した。主な購入設備は、顕微鏡、電子てんびん、直流電流計、円の面積説明器、立体展開説明器。		
	<p>【小学校】</p> <p>理科設備： 整備額 1,349,490円(内補助額611,200円)      購入数 84個(内補助対象73個)</p> <p>算数設備： 整備額 281,112円(内補助額100,000円)      購入数 17個(内補助対象15個)</p> <p>【中学校】</p> <p>理科設備： 整備額 567,986円(内補助額 233,800円)      購入数 16個(内補助対象12個)</p> <p>数学設備： 整備額 23,360円(内補助額 11,000円)      購入数 1個(内補助対象1個)</p>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
【小学校】 国が定める1校当たりの設備の基準金額に対する現有額(全校平均)の割合	理科 50.5% 算数 42.5%	前年度と比較して、理科は0.7ポイント、算数は0.7ポイント向上した。 (1校当たりの基準金額：理科10,341,000円、算数2,124,000円)	
【中学校】 国が定める1校当たりの設備の基準金額に対する現有額(全校平均)の割合	理科 31.2% 数学 20.5%	前年度と比較して、理科は0.3ポイント、数学は0.1ポイント向上した。 (1校当たりの基準金額：理科22,344,000円、数学2,364,000円)	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	国庫補助金(計956,000円)も活用し、理科、算数及び数学の設備の整備を進めることができた。今後も、新たな設備の購入及び老朽化した設備の入替を進めていく。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			





基本目標Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上

Ⅳ-1

<b>施策名</b>		家庭の教育力の向上		<b>点検評価表 作成課</b>		生涯学習スポーツ振興課			
<b>施策の方向性</b>		○家庭教育の大切さや子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けるための啓発活動を推進します。 ○親として育ち、家庭での教育力を付けるための学習を推進します。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○家庭教育学級の充実 ○「親の学習」講座の推進 ○家庭教育だより「まごころ」の発行							
<b>指標名</b>		新中学1年生の保護者に対する「親の学習」講座実施件数							
<b>成果 指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	中学生になる小学6年生の保護者に向けて、「親の学習」講座を実施した件数(小学校の就学時健診において、新小学1年生の保護者に対しては既に実施済)	0回 (0校)	2回 (2校)	3回 (3校)	4回 (4校)	9回 (9校)	10回 (10校)		
		現状値 (平成23年度)		未実施		➔		目標値 (平成29年度)	全中学校で、 年1回以上実施

<b>平成28年度 重点施策</b>	○家庭教育学級事業 ○家庭教育事業	
<b>平成28年度 実績</b>	○家庭教育学級の充実 ・全12公民館において、家庭教育学級を実施した。 ・家庭教育学級の実施にあたり、社会教育指導員と内容を検討し、家庭教育アドバイザーも活用した。  ○「親の学習」講座の推進 ・全小学校(19校)で、就学時健診において保護者を対象に「親の学習」講座を実施した。 ・全中学校(10校)で、新1年生となる児童の保護者を対象に「親の学習」講座を実施した。  ○家庭教育だより「まごころ」の発行 ・年3回発行した。(計19,500部) ・平成27年度から配布形態を、幼・保・小・中の児童生徒がいる各家庭に配布する形から、自治会回覧方式に変更した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	「親の学習」については、新中学1年生の保護者を対象とした講座の実施方法について、検討の必要がある。また、「まごころ」については、自治会回覧方式に変更したことにより、今まで目にしていなかった家庭にも届くことを考慮し、必要によっては内容を検討していく。	
<b>評価コメント</b>	・家庭教育学級は、各公民館において特色のある講座を実施できた。 ・「親の学習」講座については、全小・中学校(29校)の保護者を対象に実施することができた。 ・「まごころ」の配布形態を自治会回覧方式に変更したことにより、より多くの家庭に届けることができている。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・各公民館で実施している家庭教育学級は、地域の色々な方と交流出来る、良い事業である。継続して欲しい。 ・家庭の教育力の向上については、様々な方面できめ細かく取り組んでおり、評価できる。
--------------	---

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	家庭教育学級事業		<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	家庭教育学級の内容等を公民館と検討し、実施する。			
<b>平成28年度 の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全公民館(12館)において、「親の学習」講座を中心として、「人権学習」、「親子料理教室」や「音楽鑑賞会」など家庭教育学級を実施した。</li> <li>・家庭教育学級の実施にあたり、社会教育指導員と内容を検討し、家庭教育アドバイザーも活用した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	家庭教育学級の実施回数	34回	前年度(32回)より実施回数は増加している。	
家庭教育学級の参加者数	2,470人	参加者数は前年度(2,415人)より増加している。		
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	各公民館で、「親の学習」を中心とした各地区で特色のある家庭教育学級を実施した。「親の学習」については、各公民館が社会教育指導員と相談しながら計画的に事業を行うことができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	家庭教育事業		<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	「親の学習」講座を新小学1年生及び新中学1年生の保護者に対して実施する。また、家庭教育だより「まごころ」を年3回発行する。			
<b>平成28年度 の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「親の学習」講座の推進</li> <li>・全小学校(19校)で、就学時検診において新1年生の保護者を対象として「親の学習」講座を実施した。</li> <li>・新中学1年生(小学6年生)の保護者を対象とした「親の学習」講座を全中学校の保護者を対象に実施した。</li> <li>○家庭教育だより「まごころ」の発行</li> <li>・年3回発行した。(計19,500部)</li> <li>・平成27年度より自治会回覧方式に変更した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	「親の学習」講座の実施回数	29回	「親の学習」講座を全小・中学校の保護者を対象に実施した。	
	「親の学習」講座の参加者数	1,797人	「親の学習」講座の参加者数は前年度(1,644人)よりも増加している。	
「まごころ」年間発行部数	19,500部	「まごころ」は配布形態を自治会回覧方式に変更したため、発行部数の削減ができた。		
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	新中学1年生の保護者を対象とした講座の実施方法は、検討の余地があるが、「親の学習」講座については、全小・中学校(29校)の保護者を対象に実施ができ、参加者も増加している。「まごころ」は全3回発行することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上

Ⅳ-2

<b>施策名</b>		地域の教育力の向上		<b>点検評価表</b>		生涯学習スポーツ振興課	
<b>作成課</b>							
<b>施策の方向性</b>		○子どもたちの居場所づくりや学習支援などを行う環境を整備するにあたり、地域住民の積極的な参加を促進する。 ○ボランティア意識の高揚を図り、社会参加活動や青少年健全育成の取組を促進する。					
<b>施策に関連する主な取組</b>		○世代間交流事業の推進			○ボランティア活動の促進		
		○放課後子ども教室の推進			○青少年健全育成活動の促進		
		○学校応援団の推進					
		○学校教育・社会教育の連携					
<b>指標名</b>		「がんばル〜ム」に参加した児童の満足度					
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値
	参加児童に対しアンケートを行い、児童が「満足した」と回答した割合	66.8%	73.7%	94.5%	95.1%	92.0%	95.0%
		現状値 (平成23年度)		66.8%	➡	目標値 (平成29年度)	

<b>平成28年度 重点施策</b>	○小学生学習支援事業 ○学校運営協議会の設置(再掲) ○深谷の子「6つの誓い」の活用(再掲)	
<b>平成28年度 実績</b>	○世代間交流事業の推進 ・全公民館(12館)で各種学級講座等を開催し、11,673人の参加があった。前年度(11,326人)よりも増加した。 ○放課後子ども教室の推進 ・がんばル〜ムを全小学校(19校)で実施した。 ○学校応援団の推進 ・安心して学校応援活動を行うことができるよう、学校支援者補償制度に加入した。 【主な取組内容】授業の補助、登下校の安全管理、部活動の指導、図書の整理や読み聞かせ、校内の環境整備、学校行事の運営支援など ・各小・中学校における活動費用の補助を行った。 ○学校教育・社会教育の連携 ・小・中学校において「親の学習」を開催した。 ○ボランティア活動の促進 ・ふかや市民大学連絡協議会へボランティア情報を提供した。 ・ふかや市民大学の講座で、「学校支援ボランティア講座」を実施した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	・「がんばル〜ム」については参加者数が横這いであるため、参加者が少ない小学校の人数を増加させたい。	
<b>評価コメント</b>	・各公民館にて各種学級講座及び世代間交流事業を実施し、参加者も徐々に増加している。 ・成果指標であるがんばル〜ムの参加児童の満足度は、前年度に比べて3ポイント上がった。 ・ふかや市民大学でのボランティア講座の実施や情報提供等により、ボランティア活動を促進することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・がんばル〜ムは、児童にとって非常に素晴らしい取組である。今後も継続してほしい。 ・地域の行事への参加を促し、地域の交流を深めていけるとよい。
--------------	--

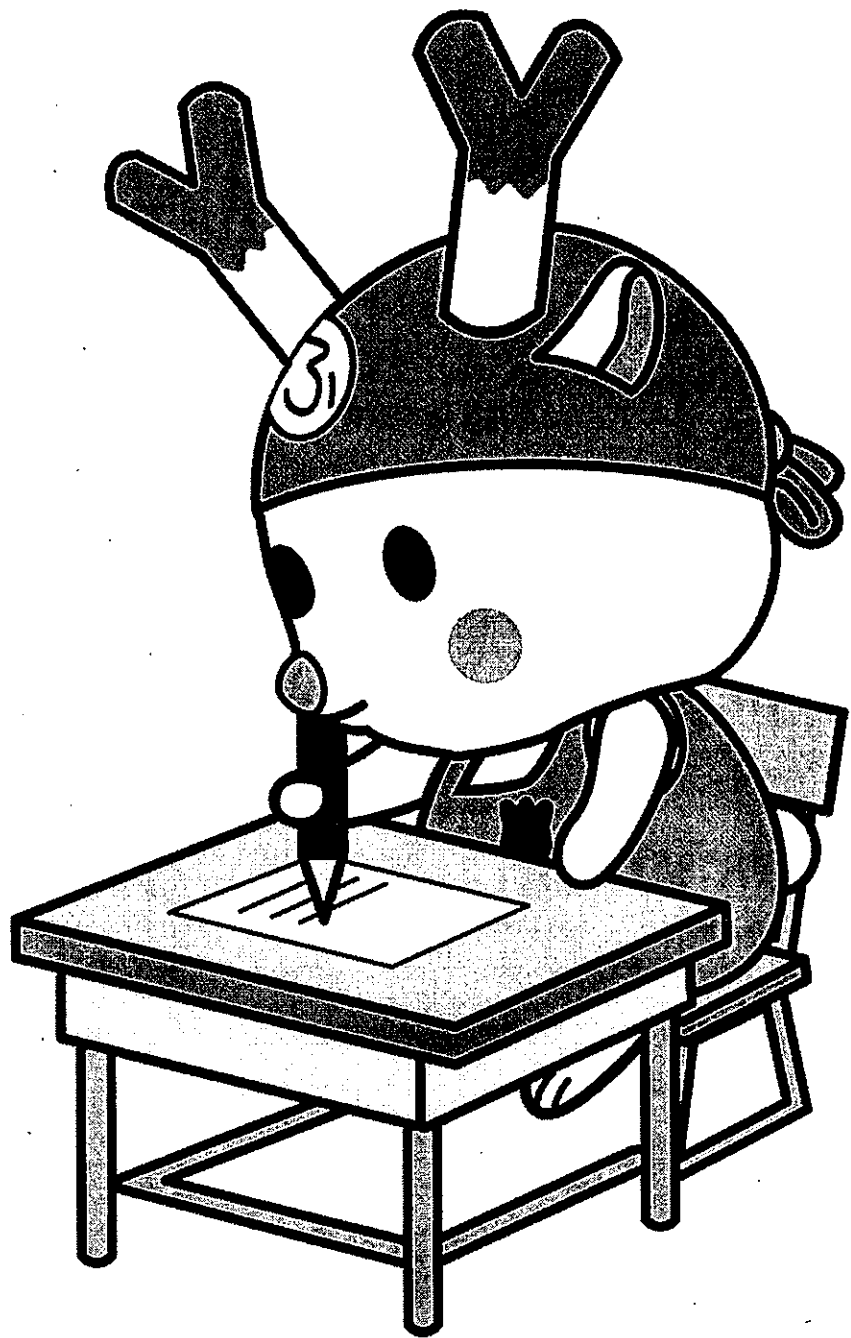
# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	小学生学習支援事業	<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ推進課
<b>概要</b>	児童の休日の居場所作り、有意義な活動機会を提供するため、全小学校(19校)において、毎週土曜日の午前中、学習支援事業「がんばル〜ム」を実施する。		
<b>平成28年度の 実績</b>	・全小学校(19校)で、「がんばル〜ム」を実施した。(夏季等長期休暇及び各学校の行事の無い日、天候等による中止を除く。)		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	がんばル〜ムの延べ実施回数	493回	各学校の事業等で実施回数にバラつきがあるが、実施可能日については、全日程実施できた。
	がんばル〜ムの延べ参加者数	1,014人	昨年度(958人)よりも参加児童数は増加した。
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	参加児童数は昨年度よりも増加している。引続き、小学生のためのより良い土曜日の居場所作りを継続していくものとする。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	学校運営協議会の設置(再掲)	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	深谷市コミュニティ・スクールを各小・中学校に設置し、学校運営協議会の活動を充実させ、地域とともにある学校づくりを推進するとともに、地域の活性化を図り、地域総がかりで次代を担う子供たちの育成をしていく。		
<b>平成28年度の 実績</b>	・全小・中学校(29校)に学校運営協議会を設置し、委員を任命した。		
	・深谷市コミュニティ・スクール推進実行委員会、同推進委員会を年2回開催した。		
	・学校運営協議会の充実を図るため、深谷市コミュニティ・スクール担当者会議、学校運営協議会会長連絡協議会、深谷市コミュニティ・スクール研修会を開催した。		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
各小・中学校の学校運営協議会設置割合	100%	平成28年4月から平成29年1月にかけて、準備が整った各小・中学校から順次、学校運営協議会を設置した。	
各小・中学校の学校運営協議会の開催回数平均	2.5回	学校運営協議会を設置した時期により、開催回数にばらつきが出た。	
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	3	時期に開きはあるが、全小・中学校(29校)に学校運営協議会を設置することができた。学校運営協議会の充実を図り、学校・家庭・地域が協働する形を作っていくために、さらに関係者の研修会や協議会を行っていく。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

# 重点施策評価表

重点施策名	深谷の子「6つの誓い」の活用		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】学校・家庭・地域が一体となり、第2、第3の渋沢栄一翁を育てる基盤づくりを力強く推進するために、栄一翁の心を受け継ぐ深谷の子「6つの誓い」の取組を行う。			
平成28年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>各幼稚園、小・中学校、市役所、公民館及び総合支所にチラシを配布した。</li> <li>各幼稚園、小・中学校の全園児・児童・生徒にチラシを配布し、各家庭に周知した。</li> <li>深谷市教育委員会のホームページに掲載し、各校の「6つの誓い」についての取組を紹介するとともに、各園、小・中学校のホームページでも随時取組を紹介した。</li> <li>市内の各種団体(子どもサポート市民会議、深谷市PTA連合会等)の集会でチラシを配布し、取組を紹介した。</li> <li>「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」の内容例の中に、「6つの誓い」の取組を通した「ありがとう」の思いを入れ、募集を行った。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	市立学校へのチラシの配布率	100%	各幼稚園、小・中学校の全園児、児童、生徒に配布することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	各小・中学校での実践を、深谷市教育委員会のホームページで紹介するなど、各校の取組を支援することができた。各種団体の集会時にチラシを配布するなど、市民にも周知することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



基本目標Ⅴ 生涯を通じた学習活動の推進

V-1

<b>施策名</b>		学習機会の提供と学習活動の支援		<b>点検評価表 作成課</b>		生涯学習スポーツ振興課		
<b>施策の方向性</b>		○学習情報の提供、指導者の育成や確保など、生涯学習を推進するための体制を整備します。 ○多様化する学習ニーズに対応できるよう、講座・教室等の充実を図ります。						
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○生涯学習推進体制の整備・充実 ○指導者の育成・確保 ○学習情報の収集と提供 ○講座・教室の充実			○市民大学の推進 ○子ども体験学習の推進 ○放課後子ども教室の推進(再掲)			
<b>指標名</b>		「ふかや市民大学」の満足度						
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	受講生に対しアンケートを行い、 受講生が講座全体に関して「満足した」と回答した割合	93.7%	98.0%	98.0%	98.0%	96.7%	93.0%	
		<b>現状値 (平成23年度)</b>		93%	<b>→</b>		<b>目標値 (平成29年度)</b>	

<b>平成28年度 重点施策</b>	○市民大学運営事業 ○ふかや市民大学生きがい推進事業	
<b>平成28年度 実績</b>	<p>○指導者の育成・確保 ・親の学習等の講師として、家庭教育アドバイザーを活用した。</p> <p>○講座・教室の充実 ・パソコン講習会を深谷・上柴公民館において開催した。また、各公民館において各種講座を実施した。</p> <p>○市民大学の推進 ・ふかや市民大学を開催し、全20回講座を実施した。各班活動も実施し、成果発表を行った。 ・ふかや市民大学運営委員会では、次年度に向けて市民大学講座の見直しを行った。 ・校友会とともに、協働事業(「ふかや市民大学生き生きフェスタ」「深堀講座」)を実施した。</p> <p>○放課後子ども教室の推進(再掲) ・がんばル〜ムを全小学校(19校)で実施した。</p>	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	ふかや市民大学受講生の満足度が下がっており、受講生のニーズに合った講座の実施が必要である。	
<b>評価コメント</b>	<p>・各公民館において各種講座を実施し、地域ごとに学習機会の支援をすることができた。</p> <p>・ふかや市民大学の応募者数は定員を上回ったが、成果指標である受講生の満足度は目標値を下回った。</p> <p>・ふかや市民大学校友会と協働事業を実施することができた。</p> <p>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</p>	
<b>意見・提言</b>	<p>・ふかや市民大学の満足度が年々低下してきている。市民に求められている事業なので、新たな取組を取り入れつつ、今後も継続してほしい。</p> <p>・ふかや市民大学生きがい推進事業は、地元出身で活躍されている方の講演会を行うなど有意義な事業である。</p>	



# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	市民大学運営事業		<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	市民のボランティア意識の高揚を促進するため、深谷の歴史や社会貢献活動等の講座を実施する。			
<b>平成28年度の 実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふかや市民大学を開催し、全20回講座を実施した。各班活動も実施し、成果発表を行った。</li> <li>・ふかや市民大学運営委員会では、次年度に向けて市民大学講座の見直しを行った。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	市民大学応募者数	87人	募集人員(80人)を上回る応募があった。	
	市民大学講座回数	20回	全20回すべての講座を実施することができた。	
	市民大学運営委員会の開催回数	4回	運営委員会において、カリキュラムの見直しを図った。	
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	ふかや市民大学については、募集定員を上回る応募が有り、年間をとおして全20回の講座を実施できた。ふかや市民大学運営委員会では、次年度に向けてカリキュラムの見直しを図った。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	ふかや市民大学生きがい推進事業		<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	ふかや市民大学の卒業生による活動団体ふかや市民大学校友会との協働事業。ふかや市民大学終了後も、卒業生たちが生涯にわたり学習し続ける場、ボランティア活動等を通して触れ合っていく場を設けることを目的として、各種講座やボランティア情報の提供を行う。			
<b>平成28年度の 実績</b>	<p>○ふかや市民大学生き生きフェスタの開催 日 時:平成28年11月12日 会 場:深谷市民文化会館大ホール 参加者数:875名 内 容:①講演会(高桑早生氏(リオパラリンピック陸上競技女子100m・200m代表)) ②深谷市民による音楽・芸能祭 ③落語会 新丸「笑いと健康」</p> <p>○深堀講座(全5回)の開催 日 時:平成28年5月9日、6月13日、7月11日、9月12日、10月3日 受講者数:62名 内 容:深谷市民大学の専攻科(大学院)的な位置付けで、深谷市の歴史を過去から現在までの通史を縦軸に、また、その時代を切り開いた人・産業・文化・まちなみなどを横軸に深谷市の発展・変化を系統的に学んだ。</p>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	ふかや市民大学生き生きフェスタの参加者数	875人	生涯学習活動を推進するためのイベント「ふかや市民大学生き生きフェスタ」を実施し、多数の参加者があった。	
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	ふかや市民大学の卒業生で構成される「校友会」には300名を超える方が加入しており、卒業後も精力的な活動を実施している。その活動を通じて、深谷市の生涯学習活動を推進していくために、引き続き協働事業を実施していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標 V 生涯を通じた学習活動の推進

V-2

<b>施策名</b>		活動施設の整備・充実						<b>点検評価表 作成課</b>		生涯学習スポーツ振興課	
<b>施策の方向性</b>		○生涯学習活動施設の整備・充実を図ります。 ○生涯学習活動施設の利用方法の改善を図ります。									
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○公民館の整備・充実									
<b>指標名</b>		公民館利用者数									
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値			
	市内12公民館の年間利用者数	526,157名	518,570名	513,817名	529,772名	538,740名	551,930名				
		<b>現状値 (平成27年度)</b>		523,505名		<b>→</b>		<b>目標値 (平成29年度)</b>		530,000名	

<b>平成28年度 重点施策</b>	○公民館施設整備維持事業 ○公民館体育室の改修	
<b>平成28年度 実績</b>	○公民館の整備・充実 ・利用者の安全、利便性を確保するため各公民館において各種修繕を行った。 ・幡羅公民館体育室天井改修工事、南公民館体育室屋根等修繕工事を実施した。 ・岡部公民館の建設に向けて、設計業者を公募型プロポーザルで選定し、設計業務を開始した。また、用地取得に向けた土地収用法関連事務を進めた。 ・川本公民館については、建設に向けて川本公民館建設協議会会議や、川本地区の方へのアンケートを実施した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	・老朽化した公民館施設について維持管理コストの増加が懸念される。 ・岡部公民館の建設工事開始に向けて、手続を適正に進めていくことが必要である。 ・川本公民館建設予定地について、必要な調査を実施する。	
<b>評価コメント</b>	・各公民館においては、各種修繕を適正に行うことができた。 ・幡羅公民館、南公民館において体育室の天井に係る大規模な修繕を実施することができた。 ・岡部公民館、川本公民館についてはそれぞれ課題はあるものの、建設に向けて着実に事務を進めることができた。 ・成果指標である市内12公民館の年間利用者数は、前年度より増加している。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・深谷には素晴らしい公民館があるので、地域の方々が気軽に利用出来るような周知の方法を考えてほしい。 ・生涯学習の需要が高まっている。今後も学習機会の提供を続けてほしい。
--------------	---

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	公民館施設整備維持事業		<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	岡部公民館建設に向けて、用地取得、設計業務等の事務を進める。また、川本公民館建設については、建設協議会を実施する。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡部公民館の建設に向けて、設計業者を公募型プロポーザルで選定し、設計業務を開始した。また、用地取得に向けた土地収用法関連事務を進めた。</li> <li>・川本公民館については、建設に向けて川本公民館建設協議会会議や、川本地区の方へのアンケートを実施した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	川本公民館建設協議会会議回数	3回	新たな公民館に必要なと考えられる機能、設備等について協議を実施した。	
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
<b>担当課評価</b>	1	新たな岡部公民館の建設については、設計業者を選定し設計業務を開始することができた。また、川本公民館については川本地区の方にアンケートを実施し、協議会では、その結果を踏まえて協議を進めることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	公民館体育室の改修		<b>担当課</b>	教育施設課 生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	利用者の安全確保のため、非構造部材の耐震対策として、吊り天井となっている3公民館(幡羅、大寄、豊里)体育室の改修工事を順次進める。平成28年度は幡羅公民館の天井改修工事を実施する。また、老朽化が進んでいる南公民館体育室の屋根について、改修工事を実施する。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幡羅公民館体育室天井改修工事の実施</li> <li>・南公民館体育室屋根等修繕工事の実施</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	体育室修繕工事実施数	2館	修繕等が必要な体育室について、順次工事を実施することができた。	
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
<b>担当課評価</b>	1	幡羅公民館体育室吊り天井改修工事、南公民館体育室屋根等修繕工事を滞りなく実施できた。引続き、修繕の必要な公民館体育室について計画的に改修工事を実施する。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>施策名</b> 図書館の整備・充実		<b>点検評価表</b> 作成課		図書館				
<b>施策の方向性</b>		○利用者の多様なニーズに配慮しながら、図書館資料を収集、整備、保存し、蔵書の充実を図ります。 ○施設設備の老朽化による不具合を修繕するなど利用者にとって快適な環境づくりを進めます。 ○貸出し処理等の迅速化を図るなど利用者へのサービスを充実させ、利用者の拡大に努めます。						
<b>施策に関連する主な取組</b>		○図書館資料の整備・充実 ○利用者へのサービスの充実 ○読書活動の促進 ○利用者の利便性向上のための施設設備の充実						
<b>指標名</b>		資料貸出点数						
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	図書館4館及びL・フォルテの年間貸出点数の合計(資料とは、図書資料、視聴覚資料、雑誌の総合計とする。1年度3,000点の増とする)	712,427点	694,783点	658,686点	595,227点	611,457点	575,417点	
		現状値 (平成27年度)		690,105点	→		目標値 (平成29年度)	
<b>平成28年度重点施策</b>		○ふっかちゃんブックスタート事業 ○ふっかちゃん図書館障害者サービス事業						
<b>平成28年度実績</b>		○図書館資料の整備・充実 ・一般書から児童書まで、利用者からの要望に沿った資料を購入し、全体的にバランスの取れた図書資料を精選の上購入した。 ・小・中学校の調べ学習に対応できるよう、子ども向けの百科事典を本館や分館に新たに整備した。  ○利用者へのサービスの充実 ・平成28年度から3年間の窓口委託業務を更新し、本館と分館間の連絡体制の強化を図った。 ・「ふっかちゃん子ども福祉基金」を活用し、図書の利用に障害のある子どもが読書できるよう機器や資料を整備した。 ・図書館システムの更新に伴い、郷土資料のレファレンスデータベースを作成し、公開した。  ○読書活動の促進 ・市内保育園、幼稚園、小・中学校に読書活動に関するアンケート調査を行い、読書傾向の把握に努めた。 ・「ブックスタート」「赤ちゃんタイム」「おはなし会」「えいが会」などの乳幼児～小児対象の事業や、「夏休み子ども図書館員体験」事業や中学・高校生の社会体験活動としての図書館就業体験など図書館への興味を抱かせる事業を実施した。 ・「読み聞かせボランティア養成講座」「古典文学講座」などの大人向けの講座など、従来からの図書館利用者以外でも参加しやすい事業を展開した。 ・「ふっかちゃん子ども福祉基金」を活用して、ブックスタート用絵本を制作し、4か月児健診で読み聞かせ、プレゼントした。  ○利用者の利便性向上のための施設設備の充実 ・図書館ビロティーに飲料の自動販売機を設置して利用者の利便性の向上を図った。 ・川本図書館のエアコンを修繕し、快適な読書環境の維持を図った。						
<b>総合評価</b>		<b>B</b>		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない				
<b>課題</b>		・各学校との連携を深められるよう、図書主任等との連絡協議を活発にする必要がある。 ・計画的な資料の更新や保存を進めていく必要がある。 ・年間貸出点数が増加するよう、利用者のニーズに沿った資料選定を進めていく必要がある。						
<b>評価コメント</b>		・第2次子ども読書活動推進計画の策定に向けて、市内保育園、幼稚園、小・中学校における読書活動のアンケート調査を行い、基礎的な資料の収集に努めた。 ・市イメージキャラクターふっかちゃんを主人公としたブックスタート用絵本の制作と読み聞かせの活用は、全国で初めてであり、乳幼児の読書推進と子育ての応援に寄与している。 ・図書館主催事業は総じて好評を得ている。特に乳幼児～小児を対象とした読み聞かせ・おはなし会などは、参加者の増加が認められ、子どもたちのみならず、保護者も含め利用者の拡大をすることができた。 ・電子書籍の普及やスマートフォンの活用により読書離れが進んだことにより、資料貸出点数が減少しており、利用者の図書館へのニーズをアンケート等の方法により把握する必要がある。 ・以上のことから、総合評価は「B」とする。						
<b>意見・提言</b>		・成果指標である資料貸出点数が減少している。少子化などの要因もあるが貸出点数の増加を期待したい。 ・ふっかちゃんブックスタート事業は、親子で読書に親しむ習慣づくりが出来る良い取組である。今後も継続してほしい。 ・図書館主催事業は、様々な工夫がされた取組で利用者の増加につながっており評価できる。						

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	ふっかちゃんブックスタート事業		<b>担当課</b>	図書館
<b>概要</b>	ふっかちゃん子ども福祉基金を活用し、赤ちゃんとその保護者が、絵本を通して親子のふれあいを楽しみ、読書に親しむ機会を提供するため、公募により制作したブックスタート用絵本を4か月児健診の対象者に配布する。			
<b>平成28年度の実績</b>	ブックスタート用絵本の制作は全国から公募し、選定委員会により大賞作品の選定を行い、この作品を基に一部編集し「ふっかちゃんとおそぼ」を制作した。本事業の対象者は、平成28年4月2日以後に出生した乳児とその保護者であり、平成29年3月から絵本の読み聞かせと絵本の配布を開始した。			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	公募で募集した作品数	61作品	全国各地から応募作品が集まった。	
	ブックスタート用絵本の配布数	208冊	3月2日から配布と引き換えを実施した。 ※平成29年2月までの4か月児健診を受診した対象者には引換券を配布し、図書館で引換えを行っている。	
4か月児健診での絵本読み聞かせ人数	1,043人	28年度は44回実施している。		
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	親子で読書に親しむきっかけ作りとしての絵本の読み聞かせに、人気のあるふっかちゃんを主人公にした絵本を活用できた。実際の読み聞かせでも好評を得ているため、今後とも着実に継続していきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	ふっかちゃん図書館障害者サービス事業		<b>担当課</b>	図書館
<b>概要</b>	ふっかちゃん子ども福祉基金を活用し、心身の障害等により図書館の利用が困難な子どもに対し、マルチメディアデジ資料やLLブック及びその再生機器を整備し図書館内外で活用する。			
<b>平成28年度の実績</b>	マルチメディアデジ資料約100点、LLブック約70点を購入するとともに、マルチメディアデジ資料再生機器(iPad、プレクストーク)計3台を整備して利用の促進を図った。支援学級等の図書館利用の際にも資料の利用について広報した。			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	iPadの貸出件数	7件	小学校の支援学級や教育研究所のいきいき教室等に貸し出して活用してもらった。	
	LLブックの貸出件数	26件	館内での利用以外に館外貸出も行った。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	マルチメディアデジ資料をインストールしたiPadは、小学校の支援学級での利用で自学自習効果を上げている。今後とも活用の推進を図っていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>施策名</b>		渋沢栄一翁の顕彰						<b>点検評価表 作成課</b>	渋沢栄一記念館
<b>施策の方向性</b>		○渋沢栄一翁の顕彰のために資料の収集や調査・研究を行い、その成果を市内外に発信します。 ○「渋沢栄一翁ゆかりの史跡」を整備し、その活用を推進します。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信 ○渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用							
<b>成果指標</b>	<b>指標名</b>	渋沢栄一ゆかりの施設見学者数							
	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	1年間における誠之堂・清風亭 及び中の家の見学者の合計	18,120名	15,421名	16,331名	30,420名	24,390名	20,572名		
		現状値 (平成27年度)		15,000名	➡		目標値 (平成29年度)		18,000名

<b>平成28年度 重点施策</b>	○渋沢栄一記念館の充実 ○論語の里の情報発信の充実 ○渋沢栄一翁と論語の里整備活用事業
------------------------	---

<b>平成28年度 実績</b>	<p>○渋沢栄一記念館の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渋沢栄一記念館資料室の常設展示替えを行うとともに企画展を開催した。</li> <li>・見学者への展示資料の解説に対応するため、資料室に渋沢栄一記念館資料解説員を配置した。</li> <li>・資料室2階部分に新たな展示ケースを設置し、展示エリアの拡充を図った。</li> </ul> <p>○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会の開催を通じ、栄一翁の事績に関する専門的な研究成果を公開した。</li> <li>・栄一塾や史跡めぐりを開催し、栄一翁と郷土八基との関係を学ぶとともに、東京に残る栄一翁ゆかりの場所を巡り、栄一翁の活動の一端に触れる機会を提供した。今回は大学機関に残る渋沢栄一及び渋沢元治の足跡を訪ねた。</li> <li>・平成28年4月1日にリリースした、「論語の里」散策のためのガイド機能を持つ「論語の里」アプリケーションの継続的な保守点検を行い、正常動作環境を保つとともに、アプリケーションの機能を用いたクイズラリーを開催した。</li> </ul> <p>○《市民協働》渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「渋沢栄一翁と論語の里整備活用計画」に基づき、渋沢栄一記念館の駐車場整備を行った。</li> <li>・渋沢栄一翁と論語の里ボランティアの会主催の「季節のおもてなし事業」を開催し、市民協働事業として本格的な活動を開始した。</li> </ul>
----------------------	--

<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展やイベントを通じた情報発信をさらに推し進める必要がある。</li> <li>・「論語の里」の見学環境を整えるためにも、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家の速やかな改修整備が必要である。</li> <li>・ボランティア団体の活動については、引き続き支援を行う必要がある。</li> </ul>
-----------	--

<b>評価コメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渋沢栄一記念館資料室の設備の新設と更新を行うことができた。</li> <li>・旧渋沢邸「中の家」及び尾高惇忠生家の改修整備の実現まで、まだ多くの課題がある。</li> <li>・ボランティア団体主催のおもてなし事業の開催など、市民協働の形で活用事業を開始することができた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>
---------------	---

<b>意見・提言</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渋沢栄一翁関係のイベントについて、情報発信を増やしてほしい。</li> <li>・論語の里アプリケーションの開発は、若い世代にもアピールできる良い取組である。</li> </ul>
--------------	--

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	渋沢栄一記念館の充実		<b>担当課</b>	渋沢栄一記念館
<b>概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展を開催し、渋沢栄一翁の様々な功績を提示することで、新たな見学者の受入環境を整えるとともに、再来の方にも興味を持ってもらう。</li> <li>見学者への展示資料の解説に対応するため、資料室に渋沢栄一記念館資料解説員を配置する。</li> </ul>			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展示の一部見直しを行い、コーナー展示(「渋沢栄一と八基」「渋沢家を継いだ人々)」を開催した。</li> <li>2回の企画展(「新収蔵品展」「渋沢栄一と企業～王子製紙株式会社)」を開催した。</li> <li>資料室に渋沢栄一記念館資料解説員を配置し、見学者への対応を行った。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	常設展見学者数	6,310人	年度初めと年度末にコーナー展示を開催することができた。	
	企画展見学者数	8,727人	企画展を2回開催することができた。	
	資料解説員配置日数	359日	年末年始、休館日以外の全日配置を実現した。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	2	常設展の見直し、新たな企画展の立案・開催を継続し、引き続き見学者の受入れ体制の充実を図っていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	論語の里の情報発信の充実		<b>担当課</b>	渋沢栄一記念館
<b>概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォン用の「論語の里」アプリケーションを導入し、論語の里の回遊環境を向上させる。</li> <li>市内外へのPRを充実させる。</li> </ul>			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>稼働中の「論語の里」アプリケーションの保守点検を継続的に行い、利用環境の保全を行った。</li> <li>アプリケーションを利用したクイズラリーを開催し、新たな利用者を発掘した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	アプリケーションの総インストール数	772回	iOS、Android版合計	
	クイズラリー開催数(開催日数)	13回(56日)	花フェスタなどの市内行事、富岡製糸場や田島弥平旧宅における市外行事や、曆上の連休に合わせて実施し、見学者の利用環境に配慮した。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	2	携帯端末のOSアップデートに伴うアプリケーションの改良、利用上の不具合箇所の改善によるアプリケーション利用環境の保全とともに、クイズラリー開催期間の延長などを図り、新たな利用者の開拓を目指していきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	渋沢栄一翁と論語の里整備活用事業		担当課	渋沢栄一記念館
概要	<p>・「渋沢栄一翁と論語の里整備活用計画」に基づき、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家の改修整備を行う。</p> <p>・ボランティアガイドの育成・支援に取り組む。</p>			
平成28年度 の実績	<p>・渋沢栄一記念館の駐車場を整備し、行事参加者の集合拠点を設けることができた。</p> <p>・渋沢栄一翁と論語の里ボランティアの会主催による「季節のおもてなし事業」「論語の里まち歩き」を開催することができた。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	1年間における誠之堂・清風亭及び中の家の見学者の合計	20,572人	富岡製糸場が世界遺産に登録された平成26年度より減少したが、登録以前の見学者数よりも約5,000人上回ることができた。	
	季節のおもてなし事業参加者数	2,992人	春、夏、秋に3回、年度末に1回開催することができた。	
論語の里まち歩きツアー参加者数	127人	渋沢栄一記念館駐車場を起点として、13回実施することができた。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	3	<p>「渋沢栄一翁と論語の里整備活用計画」に基づき、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家の調査、設計、改修を実施していく必要がある。また、発足したガイドボランティア団体の活動支援を行い、「論語の里」を発信源とする市民活動の定着を促していきたい。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				





基本目標VI 深谷らしい文化の創造

VI-2

<b>施策名</b>		伝統文化の保存・継承と活用						<b>点検評価表 作成課</b>	文化振興課
<b>施策の方向性</b>		○文化財の調査・記録化を実施するとともに、指定を通じ、保存のための措置を講じます。 ○各種イベントの開催を通じて、文化財を活用しながら、市内の伝統文化のすばらしさを伝えていきます。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○文化財の調査、保護、管理と活用 ○埋蔵文化財の保護、保存 ○民俗芸能の保存と継承 ○文化財施設の整備・活用				○文化財保護思想の高揚			
<b>指標名</b>		普及公開事業数							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内で行う講演会、展覧会の年間開催数	10回	11回	9回	15回	12回	9回		
		現状値 (平成23年度)		10回	→	目標値 (平成29年度)		12回	

<b>平成28年度 重点施策</b>	○文化財活用事業 ○埋蔵文化財調査事業		○日本煉瓦保存整備事業	
<b>平成28年度 実績</b>	○文化財の調査、保護、管理と活用 ・市指定有形文化財の現状確認調査(悉皆調査)を行った。 ○埋蔵文化財の保護、保存 ・各種開発に伴い、埋蔵文化財確認調査(65件)・発掘調査(15件)を行った。 ○民俗芸能の保存と継承 ・無形民俗文化財後継者育成補助事業として文化財所有団体に経費の補助を行った。 ・無形民俗文化財(南阿賀野獅子舞)の記録保存を行った。 ○文化財施設の整備・活用 ・誠之堂・清風亭の公開を行った。 ・旧煉瓦製造施設の公開を行った。 ・旧煉瓦製造施設の調査工事を実施した。 ○郷土の歴史への関心や文化財保護思想の高揚 ・郷土の歴史や文化財に関する煉瓦講座や、史跡特別公開、遺跡見学会等を開催した。 ・川本出土文化財センターにて企画展「古代の郡役所 幡羅遺跡」を行った。			
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない		
<b>課題</b>	・開発協議を経て発掘調査から報告書刊行までを円滑に行う環境を、今後も維持していく必要がある。 ・旧煉瓦製造施設の修理工事等を行っていく必要がある。 ・幡羅遺跡の保存・活用の検討が大きな課題である。			
<b>評価コメント</b>	・開発に伴う確認調査・発掘調査等は、ほぼ円滑に対応できた。 ・重要文化財日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設保存活用計画に基づき、調査工事を実施し、着実に計画を進めることができた。 ・文化財施設や旧煉瓦製造施設の公開や、郷土の歴史や文化財を身近に感じられる企画展等を行うことができた。 ・成果指標である講演会や展覧会の開催数は、目標値に及ばなかったが、多数の参加者があった。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。			

<b>意見・提言</b>	・文化財の保存・継承は大事な事業である。今後も継続してほしい。 ・獅子舞等の民俗芸能を後の世代に受け継いでほしい。
--------------	--

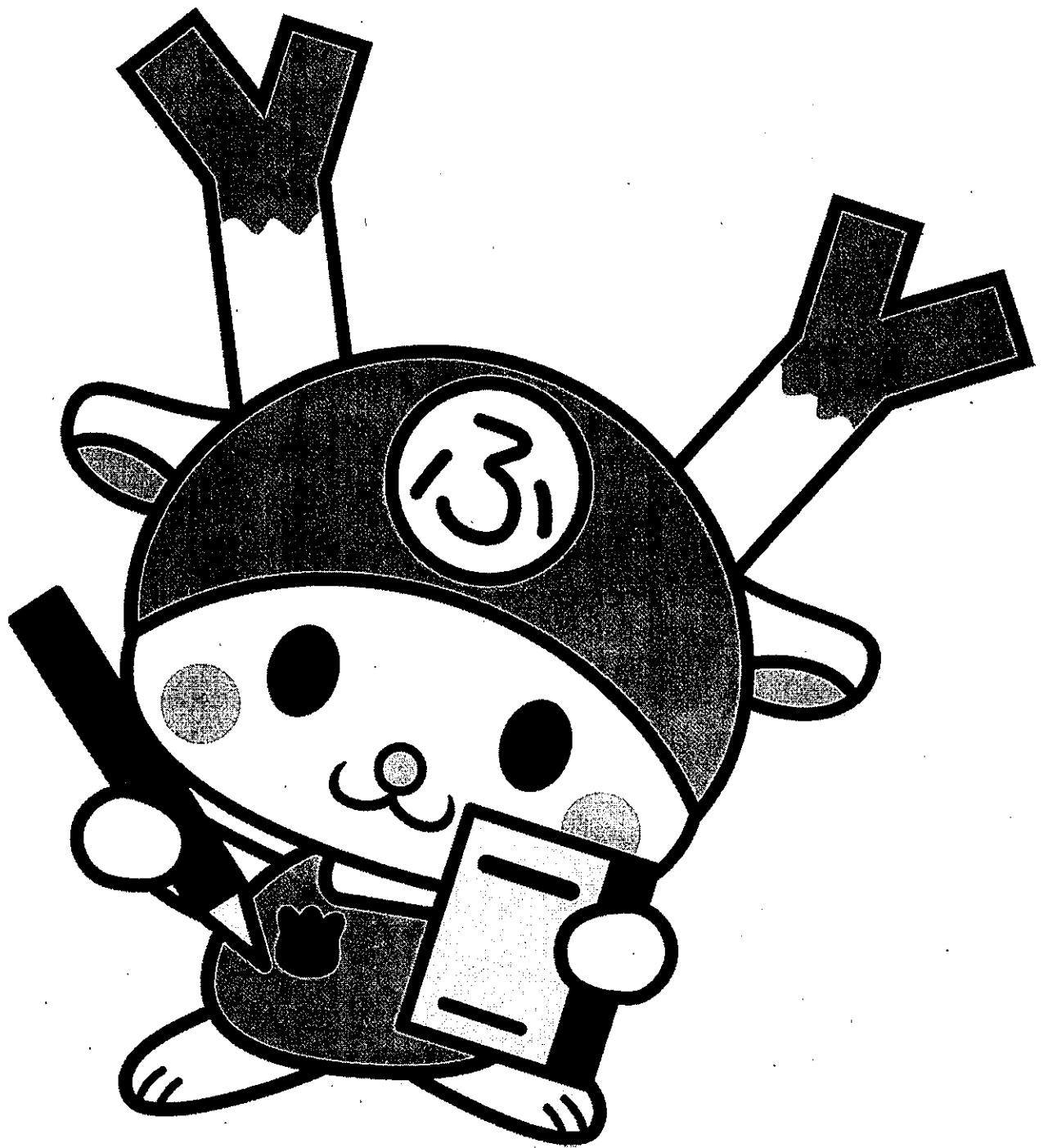
# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	文化財活用事業		<b>担当課</b>	文化振興課
<b>概要</b>	指定文化財の所有者・管理者等が行う保存修理や管理事業等に対し補助し、文化財が適切に将来へ継承できるよう図るとともに、出土文化財や史跡等の公開機会を設け活用を推進する。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幡羅遺跡に係る文化財企画展示会を行った。</li> <li>・市内発掘現場の現地説明会を実施した。</li> <li>・市内指定文化財の所有者等に対して、管理費を交付した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	文化財企画展示会の実施回数	2回	文化財を広く市民に周知するため、文化財企画展示会を実施した。	
	現地説明会の実施回数	1回	文化財を広く市民に周知するため、現地説明会を実施した。	
	管理費の交付件数	40件	市内文化財の適正な管理及び保存を目的として、文化財所有者等に対し、管理費を交付した。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	市民が歴史や文化財を身近に感じられる事業を実施し、今後も効率的に歴史、文化の継承を図り、様々な企画を継続して実施していくことが必要である。		

<b>重点施策名</b>	埋蔵文化財調査事業		<b>担当課</b>	文化振興課
<b>概要</b>	北通り線整備工事、明戸北部圃場整備をはじめとする埋蔵文化財包蔵地内で、行われる開発に先立ち、確認調査、発掘調査等を実施し、埋蔵文化財の適切な保護、保存を行う。			
<b>平成28年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋蔵文化財包蔵地に該当した開発地において確認(試掘)調査を行った。</li> <li>・埋蔵文化財包蔵地に該当した開発地において発掘調査を行った。</li> <li>・前年の発掘調査の報告書を刊行した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	確認(試掘)調査の実施件数	65件	埋蔵文化財の状況を適切に把握するために確認(試掘)調査を実施した。	
	発掘調査の実施件数	15件	埋蔵文化財の状況を適切に把握するために確認(試掘)調査を実施した。	
	発掘調査報告書の刊行数	9件	地域の歴史を構成する資料となる調査報告書を刊行した。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	開発に伴う確認(試掘)、発掘調査等の業務を円滑に行うことができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	日本煉瓦保存整備事業		担当課	文化振興課
概要	平成26年度に策定した重要文化財日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設保存活用計画に基づき、国指定重要文化財である旧煉瓦製造施設の保存・活用に必要な維持管理や修理・改修等のために、平成28年度まで2年にわたる調査工事を行う。			
平成28年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホフマン輪窯の三次元測量を行った。</li> <li>・ホフマン輪窯の煉瓦構造調査を行った。</li> <li>・ホフマン輪窯の耐震診断、耐震補強案の作成を行った。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	三次元測量(ホフマン輪窯)の実施割合	100%	窯の歪みを確認するために、三次元測量を行った。	
	煉瓦構造調査(ホフマン輪窯)の実施割合	100%	窯の内部構造を確認するために、煉瓦構造調査を行った。	
耐震診断、耐震補強案作成の実施割合	88.8%	窯の調査工事のデータを基に耐震診断を行い、診断結果に応じた耐震補強案を作成した。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	今年度は、調査工事の結果を基に、修理工事を行う。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



<b>施策名</b>		文化・芸術活動の活性化						点検評価表 作成課	文化振興課
<b>施策の方向性</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な文化・芸術に触れることができる機会を拡充します。</li> <li>○文化団体等の自主的な活動の支援・育成を行います。</li> <li>○市にゆかりある美術品の収蔵と展示公開を進めます。</li> <li>○地域ゆかりの文化資源の活用を図ります。</li> </ul>							
<b>施策に関連する主な取組</b>		○文化・芸術活動の推進 ○地域における文化活動の連携と推進 ○文化団体の育成 ○美術品の収蔵・展示公開				○地域ゆかりの文化資源の活用			
<b>指標名</b>		文化・芸術事業の参加者アンケートにおける事業の満足度							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	深谷市文化会館で開催するコンサート等の観客からアンケートを行い、「良い」と回答した割合	80%	97%	88%	94%	97%	99%		
		現状値 (平成23年度)		80%	→		目標値 (平成28年度)		85%以上

<b>平成28年度 重点施策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども芸術文化推進事業</li> <li>○地域ゆかりの偉人発掘</li> </ul>	
<b>平成28年度 実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化・芸術活動の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティスト倶楽部を開催し、子どもたちが様々な芸術や文化活動に触れる機会を設けることができた。</li> <li>・文化芸術による子どもの育成事業を開催し、良質な文化・芸術に触れることができた。</li> </ul> </li> <li>○地域における文化活動の連携と推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・深谷市美術家協会と連携し、深谷市美術展入賞作品展を開催した。</li> <li>・NPO法人市民シアター・エフと協働し、優秀映画鑑賞推進事業を開催した。</li> </ul> </li> <li>○文化団体の育成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・深谷市文化団体連合会に補助金を交付し、文化・芸術活動の活性化を図った。</li> </ul> </li> <li>○地域ゆかりの文化資源の活用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県指定有形文化財に指定されている清風亭で、文化遺産コンサートを開催した。</li> <li>・「深谷市にゆかりのある人々PartⅤこのひとをしていますか？」と題し、今では語られる機会は少ないが重要な活躍をした人たちの作品等の展示会を開催した。</li> </ul> </li> </ul>	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる    A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない        C: まったく進んでいない
<b>課題</b>	より優れた文化・芸術事業の提供を行うため、多様で良質な文化・芸術事業の企画が必要である。	
<b>評価コメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに対してミュージアムツアーや音楽ワークショップ、茶道体験などを行い、良質な文化・芸術に触れる機会を提供でき、参加者の満足度も高かった。</li> <li>・企画展において市内文化団体と協働し、地域の文化を展示紹介できた。</li> <li>・清風亭で文化遺産コンサートを開催し、参加者の満足度の高いイベントを提供できた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>	

<b>意見・提言</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティスト倶楽部は、子供たちが様々な体験ができる素晴らしい事業である。</li> <li>・地域ゆかりの偉人発掘は、深谷出身で活躍された方を顕彰する取組で、子供たちの誇りになっていくものである。今後も継続してほしい。</li> </ul>
--------------	--

# 重点施策評価表

重点施策名	子ども芸術文化推進事業	担当課	文化振興課
概要	「なぜ」を追求する、ふるさとのことを深く知る、より良く生きるの3分野について「子ども大学ふかや」を実施する。また、「アーティスト倶楽部」を開催し、子どもたちがさまざまな芸術や文化に触れ、実際に体験することで創造性を豊かにし、柔軟な発想を育む機会を提供する。		
平成28年度の実績	<p>・小学生を対象にした「子ども大学ふかや」や、小・中学生を対象にした「アーティスト倶楽部」を開催し、文化・芸術に触れる機会を提供した。</p> <p>【子ども大学ふかや】            募集定員50名であったが、74名の申し込みがあり、抽選となった。            7/30「入学式 Fun with English」 埼玉工業大学 45名            8/22「工場見学～アイスクリームができるまでのひみつ～」 赤城乳業(株)本庄千本さくら【5S】工場 47名            9/3「①赤ちゃんのお世話をしてみよう! ②「どうする? どうなる? お酒のこと」 東都医療大学 41名            11/5「ポンポンをもって元気にダンス&amp;チア!」 埼玉工業大学 43名            11/12「体験しよう! ふるさとの食文化や地域の達人の技(すいとん作り)成果発表会」 埼玉工業大学 46名</p> <p>【アーティスト倶楽部】            5/29「太鼓を演奏しよう!」 深谷公民館 28名            7/10「浴衣を着てみよう!」 深谷城址公園掃部寮 31名            9/4「ダンスをおどろう!」 深谷公民館 23名            11/23「ミュージアムツアー」 SKIPシティ 20名            12/24「音楽ワークショップ」 清風亭 10名            1/22「茶道を学ぼう!」 深谷城址公園掃部寮 17名</p>		
		実績値	指標別コメント
	子ども大学の延べ参加者数	222人	参加者数は前年度より増加した。
	アーティスト倶楽部の実施回数	6回	前年度と同様の回数を実施した。
	アーティスト倶楽部の延べ参加者数	129人	参加者数は前年度より増加した。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	市内文化団体や大学などと連携し活発な活動ができた。より効果の高い事業内容で実施できるよう検討していく。	

評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)

重点施策名	地域ゆかりの偉人発掘	担当課	文化振興課
概要	深谷市にゆかりのある人を発掘・紹介し、より多くの人たちに知ってもらうことを目的に展示等を実施する。		
平成28年度の実績	<p>・企画展示「深谷市にゆかりのある人々PartⅤこのひとをしていますか?」を開催した。企画展終了後は、デジタルミュージアムに掲載した。</p> <p>【紹介した人】            ①関流和算の大家 藤田 貞資            ②門弟五百数十名 中瀬きつての教育者 河田 菜風</p>		
		実績値	指標別コメント
	企画展の来場者数	248人	来場者数は前年度より減少した。
	展示に取り上げた人物の数	2人	平成26年度7人,平成27年度5人
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	2	市民文化団体や地域の人を通じゆかりのある人を掘りおこし、市民に紹介できた。企画展後はデジタルミュージアムに掲載した。今後はデジタルミュージアムを効果的に活用できるように検討していく。	

評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)

<b>施策名</b>		スポーツ・レクリエーション活動の環境整備		<b>点検評価表 作成課</b>		生涯学習スポーツ振興課		
<b>施策の方向性</b>		○利用者が安全かつ快適に利用できるよう、より一層の充実した管理・運営を行っていきます。 ○指導者の育成を通じ、スポーツ・レクリエーション活動に、市民が積極的に取り組めるような環境を整備します。						
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し ○指導者の養成						
<b>指標名</b>		社会体育施設における利用者数						
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	深谷市総合体育館、市民体育館、岡部B&G海洋センター(体育館)及び市営グラウンドの年間利用者数	343,112名	366,840名	357,664名	418,568名	532,330名	443,284名	
		現状値 (平成27年度)		374,462名	➡	目標値 (平成29年度)		380,000名

<b>平成28年度 重点施策</b>	○市営グラウンド・市民体育館の巡視、点検の強化 ○深谷アスリートクラブ事業における指導者養成	
<b>平成28年度 実績</b>	○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し 【整備・改修等】 ・グラウンド用の芝刈り用トラクターと草刈機を新規に購入した。 ・市民体育館の消火栓排水弁、給水管を修繕し、バドミントン支柱を新規に購入した。 ・総合体育館の蓄電池設備を改修し、トレーニング室のエアコンを新規に購入した。 ・B&G吊り上げ式バスケットボールゴール撤去工事を行った。  【利用者】 ・平成28年度利用者実績 443,284名(H27実績 532,330名) (総合体育館:281,418名、市民体育館:44,737名、B&G:19,983名、市営グラウンド97,146名)  ○指導者の養成 ・スポーツ少年団認定員研修会を行い、34名が参加した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	経年による施設の老朽化が進んでおり、毎年いずれかの施設に大規模な改修を要する状況となっている。	
<b>評価コメント</b>	・施設の修繕箇所数は年々増加傾向にあるが、限られた予算のなかで適切に対応できた。 ・市民体育館においてワックス清掃後に滑りやすくなり転倒事故が1件発生した。B&Gにおいては吊り上げ式バスケットボールゴールの滑車の摩耗により故障が生じたが、迅速な対応ができた。 ・成果指標である年間利用者数は、前年度に比較して減少しているが、目標値は超えることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・深谷アスリートクラブ事業において、指導者の育成により地域のスポーツ振興の基盤づくりを行っており、評価できる。 ・市民がスポーツ・レクリエーション活動をしやすい環境の整備を進めてほしい。
--------------	--



# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	市営グラウンド・市民体育館の巡視、点検の強化	<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	委託業者(シルバー人材センター)による毎月2回の全市営グラウンド(7か所)の確認・清掃業務及び市職員による毎朝の市民体育館の点検・巡視を実施する。		
<b>平成28年度の実績</b>	【市営グラウンド確認管理業務委託】 ・受託者 深谷市シルバー人材センター ・対象施設 7か所(中瀬グラウンド、岡部中央グラウンド、岡部東グラウンド、川本天神グラウンド、川本グラウンド・ゴルフ場、植松グラウンド、上本田グラウンド)		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	市営グラウンド確認回数	24回	専属職員による確認管理業務のため、細部の状況が点検できた。
	職員による市民体育館の点検・巡視	勤務時毎日(242回)	日々の変化が確認できたため、利用者の事故防止に繋がった。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	2	業務委託での市営グラウンド(7か所)の定期的な点検業務を実施により細部にわたる状況確認を行い事故は0件であった。ただし、市民体育館はワックス清掃後滑りやすくなり転倒事故1件が発生した。昭和42年建設で老朽化が著しく、今後の運営に注意を要する。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	深谷アスリートクラブ事業における指導者養成	<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、小・中学生に対しスポーツに精通した指導者を派遣することにより、スポーツ・レクリエーション活動の充実を図る。平成27年度に地方創生先行型交付金を受けて開始した事業である。		
<b>平成28年度の実績</b>	○小学校体育授業指導者派遣 全小学校(19校)へ大学生等を指導者として派遣し、水泳・陸上・器械運動の3種目を3日間ずつ指導した。 ○多種スポーツ教室(委託) 小学生(ミニバス、バレー、タグラグビー、ソフトテニス)、中学生(バレー、バスケ、卓球) ○教室等開催支援 サマーライアルカレッジ、生き生きフェスタ、ラグビー教室、バレーボールクリニック ○大会等開催 ジュニアバレーボール大会、ジュニアスポーツフェスタ、市民ランニング教室		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	小学校体育授業指導者派遣回数	171回	小学校体育授業で水泳・陸上・器械運動へ指導者派遣を行い、技術力向上を図った。
	ふっかちゃんジュニアスポーツフェスタ実施競技数	14種目	小学校低学年を中心に色々なスポーツを体験できるイベントを開催した。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	小学校体育授業指導者派遣においては、教員志望のスポーツ専攻大学生を中心として派遣し、深谷市を知ってもらい深谷の教育をPRすることで深谷市を希望する教員となってもらえるきっかけづくりを行った。また、各種教室や体験イベントを開催することにより、指導方法の研究や指導の質の向上を図った。東京オリンピック・パラリンピックに向けて事業を継続したい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>施策名</b>	スポーツ・レクリエーション活動の活性化	<b>点検評価表 作成課</b>	生涯学習スポーツ振興課
<b>施策の方向性</b>	○スポーツ・レクリエーション団体やスポーツ推進委員を核に、本市の地域におけるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。 ○多くの市民がスポーツ・レクリエーション大会・教室等へ参加するきっかけを作るため、情報の提供・周知を図ります。		
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ○スポーツ推進委員との連携の強化		

<b>指標名</b>	スポーツ・レクリエーション活動の活性化							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	体育協会、レクリエーション協会及びスポーツ少年団並びに市が主催した大会・教室の年間参加者数	28,322名	30,688名	33,584名	27,464名	28,893名	33,497名	
		現状値 (平成27年度)		21,702名	➡	目標値 (平成29年度)		23,000名

<b>平成28年度 重点施策</b>	○スポーツ教室・イベント開催事業 ○ふっかちゃん体操制作事業	○ラグビーワールドカップ2019関連事業
------------------------	-----------------------------------	----------------------

<b>平成28年度 実績</b>	○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ・第11回ふかやシティハーフマラソンを開催し、5,207名が参加した。 ・アスリートクラブ事業によるジュニアスポーツフェスタやふっかちゃんカップジュニアバレーボール大会、リオパラリンピックパブリックビューイングなど多くの事業を開催した。  ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ・体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団の加盟団体が主催する各種大会・教室等の広報支援として広報ふかや等への掲載を行った。  ○スポーツ推進委員との連携の強化 ・スポーツ推進委員と協力して、ふっかちゃん体操制作・障害者スポーツ・軽スポーツに取り組んだ。	
----------------------	--	--

<b>総合評価</b>	<b>S</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

<b>課題</b>	多様化・高度化するスポーツ・レクリエーションへのニーズに応えるため、指導者を養成する必要がある。
-----------	--

<b>評価コメント</b>	・第11回ふかやシティハーフマラソンを問題なく開催することができた。 ・ジュニアスポーツフェスタなどの多くの事業を開催し、年間参加者数を増やすとともに、市民のスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実を図ることができた。 ・成果指標である年間参加者数は、前年度に比べて大幅に増加した。 ・以上のことから、総合評価は「S」とする。
---------------	--

<b>意見・提言</b>	・2019年のラグビーワールドカップに向けて、イベントやスポーツ事業を今後も継続して行ってほしい。 ・ふっかちゃん体操は、体を気軽に動かせる楽しいものとなっている。イベントに指導者を派遣して、市民にふっかちゃん体操を広めてほしい。 ・障害者スポーツについても、関係課と連携して支援してほしい。
--------------	--

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	スポーツ教室・イベント開催事業		<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	市民が積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加する機会を提供し、生涯を通して健康的な生活を営むことを目的として、ふかやシティハーフマラソンを始めとする各種大会や教室開催支援を行う。			
<b>平成28年度 の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第11回ふかやシティハーフマラソンエントリー数 6,114名</li> <li>・鴨んバレー大会、体力測定、がんばルーム(子どもスポーツ支援)、ランニング教室、ジュニアスポーツフェスタの参加者数 1,327名</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	第11回ふかやシティハーフマラソンに参加したボランティアの人数	1,031名	マラソン大会ボランティアの高校生が期末テストと重なり若干の減少となった。	
	ジュニアスポーツフェスタ参加人数	1,000名	小学校低学年を中心に14種目のスポーツを一度に体験できるイベントを開催した。	
	市民ランニング教室の参加人数	59名	マラソン大会参加を目標として、また健康増進のため、初心者を対象とした教室を開催した。	
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	第11回ふかやシティハーフマラソンは、6,000名を超えるエントリーがあり、深谷市体育協会加盟団体をはじめとする1,000名を超える市民ボランティアにより盛大に開催できた。今年度からスポーツ未経験者に色々なスポーツを体験してもらう企画としてジュニアスポーツフェスタを開始し、各団体等の協力により盛大に開催できた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	ふっかちゃん体操制作事業		<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	ふっかちゃんをイメージした体操を作成し、準備体操などで使用することにより、市民に楽しみながら運動とケガ予防に取り組んでもらうとともに、健康増進につなげていく。			
<b>平成28年度 の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民協働事業として、ふっかちゃん体操を制作した。ふっかちゃんのかわいらしいイメージや動きを基に、ふっかちゃんにもできる体操にこだわり、誰もがやりやすい体操にすることができた。</li> <li>・市民協働事業者……………深谷市スポーツ推進委員協議会、公益財団法人深谷市地域振興財団</li> <li>・市民協働事業者の役割…曲の選定、体操の振り付け</li> <li>・市の役割……………曲の募集協力、体操の監修、市民への周知、メディアへの情報発信</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	ふっかちゃん体操制作会議	13回	スポーツ推進委員自ら振り付けを考案し、議論を重ねながら創意工夫されていた。	
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
<b>担当課 評価</b>	2	1年間と限られた期間の中で体操の振り付けをほぼ完成することができた。また振り付けをスポーツ推進委員自らが作り上げたことで支出負担が大幅に減となった。今後の活動に期待できる。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	ラグビーワールドカップ2019関連事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課				
概要	ラグビーが盛んである本市は、ラグビーワールドカップ2019試合会場となった熊谷市の隣接市であり、市を挙げて大会を盛り上げるため、市民協働事業で取り組む事業である。							
平成28年度 の実績	<p>○市民協働事業として、深谷ラグビーフェスティバルを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民協働事業者……………NPO法人深谷スポーツクラブ</li> <li>・市民協働事業者の役割…ラグビーに関するルール解説・技術指導、イベントの開催運営</li> <li>・市の役割……………イベント等場所の提供、イベントの広報、関係機関への協力要請</li> </ul>							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>深谷ラグビーフェスティバル タグラ グビー交流会参加人数</td> <td>500人</td> <td>小学校へ参加要請し、多くの学校に協力い ただけた。</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	実績値	指標別コメント	深谷ラグビーフェスティバル タグラ グビー交流会参加人数	500人	小学校へ参加要請し、多くの学校に協力い ただけた。	
指標名	実績値	指標別コメント						
深谷ラグビーフェスティバル タグラ グビー交流会参加人数	500人	小学校へ参加要請し、多くの学校に協力い ただけた。						
担当課 評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価区分</th> <th>評価コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>ラグビーワールドカップ日本大会が開催される2019年まで継続していきたい。協力事業者も競技全体を統括する市ラグビーフットボール協会へ拡充して、取り組んでいきたい。</td> </tr> </tbody> </table>	評価区分	評価コメント	2	ラグビーワールドカップ日本大会が開催される2019年まで継続していきたい。協力事業者も競技全体を統括する市ラグビーフットボール協会へ拡充して、取り組んでいきたい。			
	評価区分	評価コメント						
2	ラグビーワールドカップ日本大会が開催される2019年まで継続していきたい。協力事業者も競技全体を統括する市ラグビーフットボール協会へ拡充して、取り組んでいきたい。							
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)								

## 6 結びに

深谷市教育委員会では、本市教育行政の基本計画である深谷市教育振興基本計画に基づいて、教育行政を推進しています。

平成29年度の点検評価では、深谷市教育振興基本計画の25施策すべてを対象に、平成28年度に執行した各施策の点検評価を実施しました。

その結果、25施策中、1施策に対して総合評価「S」（計画以上に進んでいる）と、23施策に対して総合評価「A」（ほぼ計画通りに進んでいる）と評価することができましたが、1施策に対して総合評価「B」（あまり進んでいない）となりました。

今後も、社会情勢の変化を踏まえながら、深谷市教育振興基本計画に基づき、目標に向け着実に推進していくとともに、今回の点検評価で課題とされた点については事業の改善等を図っていきたいと考えています。また、教育行政の推進にあたっては、教育委員会と市民、地域及び関係機関が連携し、一体となった取組を推進していきたいと考えています。

最後に、今回の点検評価を行うにあたり、その客観性を確保する観点から、次の点検評価者にご意見及びご提言をいただきました。この場を借りましてお礼申し上げます。

篠原 善廣	東京家政大学附属女子中学校高等学校長
根岸 雅子	深谷市社会教育委員会議議長

なお、施策ごとの総合評価及び点検評価者のご意見及びご提言の要旨を次のとおり一覧で示します。

施策名	総合評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
I- (1) 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	A	子育てひろばの満足度が、3年連続で100%となったことが評価されました。	4
I- (2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	A	全国学力・学習状況調査における県の平均正答率を上回る項目数が、大幅に改善したことが評価されました。	8
I- (3) 郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	A	小学校3年生からの早期の外国語活動が評価されました。英会話ができるよう、生きた英語を学ぶことについて提言を受けました。	12
I- (4) 夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	A	ICT機器の整備及び指導を行える教員の充実が評価されました。	16
I- (5) 高い志をもつキャリア教育の推進	A	キャリア教育の取組成果が評価されました。将来を見据えた進学指導について提言を受けました。	18
I- (6) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	A	通常学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成率の上昇が評価されました。	22
II- (1) まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	A	渋沢栄一翁が大切にされた、まごころと思いやりの定着が評価されました。深谷の子「6つの誓い」の家庭での取組及び「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」の応募作品増加について提言を受けました。	26
II- (2) いじめ・不登校の防止	A	不登校児童生徒の割合が県平均より低いことが評価されました。家庭の状況や子供の状態の把握について提言を受けました。	30
II- (3) 生徒指導の充実	A	児童生徒の暴力行為の発生件数の減少傾向が評価されました。関係機関との連携について、提言を受けました。	34
II- (4) 人権を尊重した教育の推進	A	人権感覚育成プログラムを実践した学級の割合が、小・中学校ともに100%を達成したことが評価されました。児童虐待の防止について提言を受けました。	38
II- (5) 健康の保持増進	A	朝食欠食の解消や、学校保健委員会でのPTAとの連携強化について提言を受けました。	42

施策名	総合評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	項
Ⅱ－(6) 体力の向上と学校体育活動の推進	A	新体力テスト結果の5段階絶対評価の上位2ランクの生徒割合の上昇が評価されました。子供の体力向上のため、体を動かす習慣作りについて提言を受けました。	46
Ⅲ－(1) 信頼される教職員の育成	A	こころざし深谷教師塾に参加する教職員の増加が評価されました。	50
Ⅲ－(2) 子どもたちの安心・安全の確保	A	多方面にわたる危機対応の避難訓練の実施が評価されました。子供達が安心して過ごせる環境の整備について提言を受けました。	54
Ⅲ－(3) 学習環境の整備・充実	A	学校図書館図書基準について、全小・中学校で標準冊数を上回っていること及び耐震化・老朽化への計画的な対策による安全な学校環境の整備が評価されました。	58
Ⅳ－(1) 家庭の教育力の向上	A	各公民館で実施している家庭教育学級及び家庭の教育力の向上についてのきめ細やかな取組が評価されました。	62
Ⅳ－(2) 地域の教育力の向上	A	がんばル〜ムの実施が評価されました。地域行事への参加の促進について提言を受けました。	64
Ⅴ－(1) 学習機会の提供と学習活動の支援	A	ふかや市民大学生いきが推進事業の実施が評価されました。ふかや市民大学での新たな取組について提言を受けました。	68
Ⅴ－(2) 活動施設の整備・充実	A	公民館の利用方法の周知について提言を受けました。	70
Ⅴ－(3) 図書館の整備・充実	B	図書館主催事業の取組について評価されました。貸出点数の増加について提言を受けました。	72
Ⅵ－(1) 渋沢栄一翁の顕彰	A	論語の里アプリケーションの開発が評価されました。渋沢栄一翁関係イベントの情報発信について提言を受けました。	74
Ⅵ－(2) 伝統文化の保存・継承と活用	A	文化財や民族芸能の保存・継承事業の継続について提言を受けました。	78
Ⅵ－(3) 文化・芸術活動の活性化	A	子供が様々な体験を行えるアーティスト倶楽部の実施及び深谷出身の偉人発掘が評価されました。	82

<p>VII-(1) スポーツ・レクリエーション活動の環境整備</p>	<p>A</p>	<p>深谷アスリートクラブ事業における、地域のスポーツ振興の基盤づくりが評価されました。スポーツ・レクリエーションのための環境整備について提言を受けました。</p>	<p>84</p>
<p>VII-(2) スポーツ・レクリエーション活動の活性化</p>	<p>S</p>	<p>ラグビーワールドカップに向けたイベントやスポーツ事業の継続及びふっかちゃん体操周知について提言を受けました。</p>	<p>86</p>



平成 29 年度  
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

発 行 平成 29 年 11 月  
編 集 深谷市教育委員会

〒366-0823

深谷市本住町 17-3

TEL 048-574-5811

FAX 048-574-1744

